

光緒順天府志

地理志十六

光緒順天府志

天文表

元和鳳漢齊南席徐胡玉麟宛平陳晉同纂

談天測驗之法古疏今密求太陽高度太陽方位晝夜時刻昏旦更點時刻皆以黃赤大距本處北極高度爲立算之本是書遵考成後編黃赤大距爲二十三度二十九分順天府北極出地度爲三十九度五十五分斯測量所得與推算所得無不吻合又推算所得太陽之高度自地心計算立表取影則在地面而不在地心故必減去逐度地半徑差角斯爲實測之視高表影所至立表則齊太陽上邊臥表則齊太陽下邊故必於視高內加逐度太陽視半徑爲太陽上邊視高減視半徑爲太陽下邊視高每日太陽出入之先後尙有朦影刻分考成定地平下十八度每日昏旦更點時刻分則遵協紀辦方以日入後入刻起更日出前九刻攢點日

入後加朦影刻分爲初昏日出前減朦影刻分爲平旦餘刻五分
 之爲二三四五更之時刻分如法布算列五表如左而以分野附
 於後作天文表

表一 南北緯度
 東西經度

北極高度	距府城緯度	距省城緯度	偏府城經度	偏省城經度
------	-------	-------	-------	-------

十度	十分	北度	十分	東度	十分	西度	十分
十度	十分	北度	十分	東度	十分	西度	十分
十度	十分	北度	十分	東度	十分	西度	十分
十度	十分	北度	十分	東度	十分	西度	十分
十度	十分	北度	十分	東度	十分	西度	十分

三九	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
三九	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
三九	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
三九	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
三九	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五

三九	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四
三九	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四
三九	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四
三九	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四
三九	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四

三九	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三
三九	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三
三九	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三
三九	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三
三九	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三

三九	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
三九	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
三九	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
三九	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
三九	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二

三九	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一
三九	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一
三九	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一
三九	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一
三九	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一

三九	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
三九	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
三九	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
三九	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
三九	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

通 州	三 河	武 清	寶 坻	甯 河	昌 平	順 義	密 雲	懷 柔	涿 州	房 山	霸 州	州
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---

三九	四〇	三九	三九	三九	四〇	四〇	四〇	四〇	三九	三九	三九	三九
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

五五	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

無距緯度	北	南	南	南	北	北	北	北	北	南	南	南
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

〇五	〇二	〇二	〇一	〇一	〇四	〇五	〇一	〇二	〇三	〇一	〇一	〇四
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

〇〇	〇一	〇三	〇五	〇五	〇四	〇一	〇二	〇四	〇三	〇三	〇四	〇三
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

東	東	東	東	東	西	東	東	東	西	西	西	無偏經度
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	------

〇四	〇三	〇二	〇五	〇三	〇九	〇一	〇六	〇二	〇二	〇三	〇二	〇二
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

〇五	〇三	〇一	〇四	〇三	〇二	〇四	〇七	〇三	〇二	〇二	〇二	〇一
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

文安縣城

三八

五四

南一

三〇

南〇

三〇

東〇

〇〇

東〇

五六

大城縣城

三八

四四

南一

〇一

南〇

〇一

東〇

〇一

東〇

〇五

保定縣城

三九

〇〇

南〇

〇五

北〇

〇〇

西〇

〇〇

東〇

〇五

薊州城

四〇

〇五

北〇

〇一

北〇

〇一

東〇

〇五

東〇

〇五

平谷縣城

四〇

〇三

北〇

〇一

北〇

〇一

東〇

〇四

東〇

〇三

表二

七

十二

候日

正午

太陽

高度

及

尺

節候

節候

節候

日

實高

徑半

視高

視半

上邊

立表

下邊

臥表

日

宮

十度

角差

十度

徑

十度

丈尺

十度

丈尺

宮

宮

冬至日

度

十秒

十秒

十秒

十秒

十秒

十秒

十秒

十秒

度

冬至日

丑

二六

八二

六二

二六

〇九

二六

〇二

丑

冬至日

蚯蚓結

〇三

五六

三五

一六

五二

八六

一六

九四

七〇

蚯蚓結

冬至後五

初

〇〇

五二

二二

一四

八一

一三

〇三

九初

大雪後十

日

丑

二六

八二

六二

二六

〇九

二六

〇二

寅

大雪後十

鹿角解

五〇四一

四一

一六五七

八二

二五

四八

二荔挺出

冬至後十

五二六八

二六

二七〇九

二六〇二

寅

大雪後五

日

水泉動

一五八〇

五八

一六四七

〇四二五

〇二

寅

虎始交

小寒日

五二七八

二七

二七〇九

二七〇二

寅

大雪日

日

鴈北鄉

一四二六

二六

一六四二

五〇一〇

五六一

鴈且

不鳴

小寒後五

五二八八

二八

二八〇九

二七〇二

寅

小雪後十

日

鵲始巢

二〇三五

〇五

二八〇九

二七〇二

寅

閉塞而成

日

小寒後十

五二八八

二八

二九〇八

二八〇二

寅

小雪後五

日

雉雊

五二八八

二八

二九〇八

二八〇二

寅

天氣上騰

地氣下降

大寒日

五二八八

二九

三〇〇八

二九〇二

寅

小寒日

日

雞乳

五二八八

二九

三〇〇八

二九〇二

寅

虹藏不見

日

大寒後五

五二八八

二九

三〇〇八

二九〇二

寅

立冬後十

日

日

五二八八

二九

三〇〇八

二九〇二

寅

日

日

征鳥鴈疾

五〇一

四七二

一六八

二八二

四五六

五九七

雉入大水

大寒後十日

子三二八

三二

三二〇

七三二

〇三

卯

立冬後五

水澤腹堅

〇一八

二七

一六

四七四

〇七八

〇二

地始凍

立春日

子三三七

三三

三三〇

七三三

〇三

卯

立冬日

東風解凍

一四三

四二

一六五

九四一

二六三

〇一

水始冰

立春後五日

子三五七

三五

三五〇

七三四

〇三

卯

霜降後十

蟄蟲始振

〇二四

一四

一六三

四六〇

五八四

九一

蟄蟲咸俯

立春後十日

子三六七

三六

三七〇

六三六

〇三

卯

霜降後五

魚陟負冰

二五二

五二

一六〇

八六〇

三五七

一〇

草木黃落

雨水日

亥三八七

三八

三八〇

六三八

〇三

卯

霜降日

蟄祭魚

〇三五

三五

一六五

一七五

〇一九

九五

初

雨水後五日

亥四〇七

四〇

四〇〇

五四〇

〇四

辰

寒露後十

雨水後五日

亥四〇七

四〇

四〇〇

五四〇

〇四

辰

寒露後十

候雁北

五〇二三

一〇二三

六三九八

二〇六〇

六二六二

新有黃華

雨水後十

亥四二六四二

四二〇五

四一〇四

辰

寒露後五

草木萌動

〇〇一五

一四一六

九二四九

五八四九

二雀入大水

驚蟄日

亥四四六四四

四四〇五

四三〇四

辰

寒露日

桃始華

一〇九

〇九一六

二五一〇

五三八一

一鴻雁來賓

驚蟄後五

亥四六六四六

四六〇四

四四〇五

五辰

秋分後十

倉庚鳴

二〇六

〇六二二

三六五〇

一四一五

一水始涸

驚蟄後十

亥四八六四八

四八〇四

四四七〇

五辰

秋分後五

鷹化爲鳩

二〇五

二〇五二

四四九一

五辰

蟄蟲始戶

春分日

戌五〇六五〇

五〇四二

〇四四九

〇五辰

秋分日

元鳥至

〇〇五

〇四一六

二一四四

八九一〇

雷始收聲

春分後五

初〇〇五

五四〇九

五二〇三

三六四九

三初白露後十

雷乃發聲

五二四二〇四一六二〇八五四八三五二

羣鳥養羞

春分後十日

戊五五五五

五四〇三五三〇六

白露後五日

始電

一〇三〇二一六

一九五九四六八二二

元鳥歸

清明日

戊五六五五六

五六〇三五五〇七

白露日

桐始華

一〇〇〇一六一六三三四四三三一

鴻雁來

清明後五日

戊五七五五七

五八〇三五七〇七

處暑後十日

田鼠化為鴽

二五四五四一六一〇三一八八九一

禾乃登

清明後十日

戊五九四五九

六〇〇二五九〇八

處暑後五日

虹始見

二四六四六一六〇二八八三〇四九〇

天地始肅

穀雨日

酉六一四六一

六一〇二六一〇九

已處暑日

萍始生

〇三四三四一六五〇六七一八一三〇

廣乃祭鳥

穀雨後五日

酉六三四六三

六三〇二六三〇九

午立秋後十日

鳴鳩拂其

羽

穀雨後十

日

戴勝降于

桑

立夏日

蜩鳴

立夏後五

日

蚯蚓出

立夏後十

日

王瓜生

小滿日

苦菜秀

小滿後五

日

五〇一七

五四四

四〇一七

五九三三

六五〇二

六四一〇

五二

西六四四

六四四

六五〇二

六四一〇

六四一〇

六四一〇

六四一〇

〇一五五

二四八

二四八

二四八

二四八

二四八

二四八

西六六六

六六六

六六〇二

六六〇二

六六〇二

六六〇二

六六〇二

一五六

二六六

二六六

二六六

二六六

二六六

二六六

五五七

五五七

五五七

五五七

五五七

五五七

五五七

西六六七

六六七

六八〇二

六八〇二

六八〇二

六八〇二

六八〇二

二五一

二五一

二五一

二五一

二五一

二五一

二五一

〇二五

〇二五

〇二五

〇二五

〇二五

〇二五

〇二五

西六九三

六九三

六九〇一

六九〇一

六九〇一

六九〇一

六九〇一

二〇八

二〇八

二〇八

二〇八

二〇八

二〇八

二〇八

五〇五

五〇五

五〇五

五〇五

五〇五

五〇五

五〇五

申七〇三

七〇三

七〇〇一

七〇〇一

七〇〇一

七〇〇一

七〇〇一

初一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

申七一三

七一三

七一〇一

七一〇一

七一〇一

七一〇一

七一〇一

鹿角解

○三五

一五五

一六五

一五五

鹿角解

小滿後十

申七二

一五三

一六五

一五五

小暑後五

芒種日

○二五

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

芒種後五

申七二

二五二

二五二

二五二

小暑日

其景長僅當前
表百分之一

中氣時

初大陽上邊
正視高

太陽方位

太陽偏度
平景偏度

平景方位
立表平景中氣

十度十分

十度十分

寸分釐毫

十一

申辰
正〇五

正東偏南三七

正西偏北四九

三九十一

月冬

未巳
正二〇

正南偏西二九

正東偏北四九

一三〇五月冬

至日

午正二六

正南

正北

〇九八七至日

十二

申辰
正〇八

正東偏南三四

正西偏北三四

五七十月

月大

未巳
正二三

正南偏西三〇

正東偏北三四

一二五小雪

寒日

午正三〇

正南

正北

〇八六〇日

正月

申辰
正一四

正東偏南二八

正西偏北二八

一九一六九月

雨水

未巳
正三一

正南偏東三五

正北偏西四三

〇八〇六霜降

日

午正三八

正南

正北

〇六二一日

二月 辰正二二 四九 正東偏南二〇一九 正西偏北一一八八月

春分 巳正四一 五三 正南偏西四一五八 正北偏東〇五五八秋分

日 午正五〇 二一 正南 正北 〇四一四日

三月 卯正〇七 三六 正東偏北〇八四三 正西偏南三七四一七月

穀雨 辰正三〇 一五 正東偏南一〇四六 正西偏北〇八四九處暑

日 巳正五一 二四 正東偏南三八三八 正西偏北〇三九九日

午正六一 三五 正南 正北 〇二六八

四月 卯正一三 二一 正東偏北一五五七 正西偏南二一五六六月

小滿 辰正三五 四八 正東偏北〇二三四 正西偏南〇六九三大暑

日 巳正五七 一五 正東偏南二八四一 正西偏北〇三一三日

午正七〇 三七 正南 正北 〇一七七

五月 卯正一五 三八 正東偏北一八四二 正西偏南一八五六五月

夏至

辰

正三七

五三九

正

東偏北

〇〇

四一

正

東偏南

〇六

四八

夏至

日

巳

正六〇

〇〇

三八

正

東偏南

三一

五九

正

東偏北

〇二

八七

日

午

正七三

四四九

正南

〇〇

正北

〇一

四五

〇一

四五

表四

時刻

晝夜

刻

影

刻

入

節候

日出

日入

晝

夜

影

節候

時

初刻

十分

時

初刻

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

十分

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

冬至

辰

初一一

〇〇

申

正二〇

五三

六一

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

九〇

五六

一二

〇五

上春分	上春分	中春分	下春分	清明	清明	中候	下候	穀雨	穀雨	中候	穀雨	下候	立夏	立夏	中候	下候
卯正初	卯初三	卯初三	卯初三	卯初二	卯初二	卯初二	卯初二	卯初一	卯初一	卯初一	卯初一	卯初初	卯初初	寅正三	寅正三	寅正三
酉正初	酉正初	酉正初	酉正初	酉正一	酉正一	酉正一	酉正一	酉正二	酉正二	酉正二	酉正二	酉正三	酉正三	戌初初	戌初初	戌初初
四八〇	四八〇	四八〇	四八〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五三〇	五三〇	五三〇	五三〇	五四〇	五四〇	五五〇	五五〇	五五〇
四八〇	四八〇	四八〇	四八〇	四四〇	四四〇	四四〇	四四〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四三九	四三九	四三九
六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	五六〇	五六〇	五六〇	五六〇	六六二	六六二	六六二	六六二	六七〇	六七〇	六七〇	六七〇	六七〇
上秋分	上秋分	中秋分	下秋分	白露	白露	白露	白露	處暑	處暑	處暑	處暑	立秋	立秋	立秋	立秋	立秋

至〇〇〇〇起更酉正二〇五

至〇〇〇〇起更亥初一一〇

上二更戌正二一二

上二更亥正一〇九

候三更亥正三〇四

候三更子初一〇八

四更子正三一

四更子正一〇七

五更寅初〇〇三

五更丑初一〇六

攢點卯初〇一〇

攢點丑正一〇五

平旦卯初二一三

平旦丑正一一一

冬〇〇五〇初昏酉正一〇二

夏〇〇五六初昏亥初二〇二

至五六五六起更酉正二〇五

至五六五六起更亥初一一〇

中二更戌正二一二

中二更亥正一〇九

候三更亥正三〇四

候三更子初一〇八

四更子正三一

四更子正一〇七

五更寅初〇〇三

五更丑初一〇六

攢點卯初〇一〇

攢點丑正一〇五

平旦卯初二一三

平旦丑正一一三

冬

初昏酉正一〇三

夏

初昏亥初二〇〇

至

起更酉正二〇六

至

起更亥初一〇九

下

二更戌正二一三

下

二更亥正一〇八

候

三更亥正三〇四

候

三更子初一〇八

四更子正三一

四更子正一〇七

五更寅初〇〇二

五更丑初一〇七

攢點卯初〇〇九

攢點丑正一〇六

平旦卯初二一二

平旦丑正二〇〇

小

初昏酉正一〇五

小

初昏亥初一一二

寒一七

起更酉正二〇八

暑一七

起更亥初一〇七

上

二更戌正二一四

上

二更亥正一〇七

候

三更亥正三〇五

候

三更子初一〇七

四更子正三一〇

四更子正一〇八

五更寅初〇〇一

五更丑初一〇八

攢點卯初〇〇七

攢點丑正一〇八

平旦卯初二一〇

平旦丑正二〇三

小二〇

初昏酉正一〇七

小二〇

初昏亥初一〇七

寒三二

起更酉正二一一

暑三二

起更亥初一〇四

中

二更戌正三〇一

中

二更亥正一〇五

候

三更亥正三〇五

候

三更子初一〇七

四更子正三一〇

四更子正一〇八

五更丑正三一四

五更丑初一一〇

攢點卯初〇〇四

攢點丑正一一一

平旦卯初二〇八

平旦丑正二〇八

小

〇〇

初昏酉正一一〇

小

〇〇

初昏亥初一〇一

寒

五六五八

起更酉正二一四

暑

五六五八

起更亥初一〇一

下

二更戌正三〇二

下

二更亥正一〇四

候

三更亥正三〇六

候

三更子初一〇六

四更子正三〇九

四更子正一〇九

五更丑正三一三

五更丑初一一一

攢點卯初〇〇一

攢點丑正一一四

平旦卯初二〇五

平旦丑正二一四

大

〇〇

初昏酉正一一三

大

〇〇

初昏亥初一〇一

寒

二四

起更酉正三〇三

暑

二四

起更亥初〇一二

上

二更戌正三〇五

上

二更亥正一〇一

候

三更亥正三〇七

候

三更子初一〇五

四更子正三〇八

四更子正一一〇

五更丑正三一〇

五更丑初一一四

攢點寅正三一二

攢點丑正二〇三

平旦卯初二〇二

平旦丑正三〇五

大

〇七

初昏酉正二〇二

大

〇七

初昏亥初〇〇二

寒

二四

起更酉正三〇八

暑

二四

起更亥初〇〇七

中

二更戌正三〇八

中

二更亥正〇一二

候

三更亥正三〇八

候

三更子初一〇四

四更子正三〇七

四更子正一一一

五更丑正三〇七

攢點寅正三〇七

平旦卯初一一三

大

一〇二

初昏酉正二〇六

寒

一六二

起更酉正三一三

下

二更戌正三一

候

三更亥正三〇九

四更子正三〇六

五更丑正三〇四

攢點寅正三〇二

平旦卯初一〇九

立

一〇七

初昏酉正二一〇

五更丑初二〇二

攢點丑正二〇八

平旦丑正三一三

大

一〇七

初昏戌正三〇九

暑

一六七

起更亥初〇〇二

下

二更亥正〇一〇

候

三更子初一〇三

四更子正一一二

五更丑初二〇五

攢點丑正二一三

平旦寅初〇〇六

立

一〇七

初昏戌正三〇二

春

二五八

起更戌初〇〇三

秋

二五八

起更戌正三一二

上

二更戌正三一四

上

二更亥正〇〇七

候

三更亥正三一〇

候

三更子初一〇二

四更子正三〇五

四更子正一一三

五更丑正三〇一

五更丑初二〇八

攢點寅正二一二

攢點丑正三〇三

平旦卯初一〇五

平旦寅初一〇三

立

二二一

初昏酉正三〇〇

立

二二七

初昏戌正二〇八

春

二五五

起更戌初〇〇九

秋

二五五

起更戌正三〇六

中

二更亥初〇〇二

中

二更亥正〇〇四

候

三更亥正三一

候

三更子初一〇一

四更子正三〇四

四更子正一一四

五更丑正二一三

五更丑初二一一

攢點寅正二〇六

攢點丑正三〇九

平旦卯初一〇〇

平旦寅初一〇七

立

二七

初昏酉正三〇六

立

二七

初昏戌正二〇〇

春

二七

起更戌初一〇〇

秋

二七

起更戌正三〇〇

下

二更亥初〇〇六

下

二更亥正〇〇〇

候

三更亥正三一二

候

三更子初一〇〇

四更子正三〇三

四更子正二〇〇

五更丑正二〇九

五更丑初三〇〇

攢點寅正二〇〇

攢點寅初〇〇〇

平旦卯初〇〇九

平旦寅初二〇〇

雨

〇〇

初昏酉正三一

處

〇〇

初昏戌正一〇七

水

五〇五

起更戌初一〇六

上

二更亥初〇一〇

候

三更亥正三一三

四更子正三〇二

五更丑正二〇五

攢點寅正一〇九

平旦卯初〇〇四

雨

〇〇六二

初昏戌初〇〇二

水

三五九

起更戌初一一二

中

二更亥初〇一三

候

三更亥正三一四

四更子正三〇一

暑

五〇五

起更戌正二〇九

上

二更亥初三一一

候

三更子初〇一四

四更子正二〇一

五更丑初三〇四

攢點寅初〇〇六

平旦寅初二〇八

處

〇〇六八

初昏戌正一〇〇

暑

三五九

起更戌正二〇三

中

二更亥初三〇八

候

三更子初〇一三

四更子正二〇二

驚					候	下	水	雨				
一。六二							二三二	一。二				
初昏戌初〇一四	平日寅正三〇七	攢點寅正〇一一	五更丑正一一三	四更子正二一四	三更子初〇〇一	二更亥初一〇二	起更戌初二〇四	初昏戌初〇〇八	平日寅正三一三	攢點寅正一〇三	五更丑正二〇二	
白					候	下	暑	處				
一。六八							二三二	一。八				
初昏戌初三一三	平日寅初三〇九	攢點寅初一〇四	五更丑初三一一	四更子正二〇四	三更子初〇〇一	二更亥初三〇四	起更戌正一一一	初昏戌正〇〇六	平日寅初三〇〇	攢點寅初〇一二	五更丑初三〇七	

蟄

三
四

起更戌初二一〇

上

二更亥初一〇六

候

三更子初〇〇二

四更子正二一三

五更丑正一〇九

攢點寅正〇〇五

平旦寅正三〇一

驚

二〇二

初昏戌初一〇六

蟄

四
九

起更戌初三〇二

中

二更亥初一一〇

候

三更子初〇〇三

四更子正二一二

露

三
四

起更戌正一〇五

上

二更亥初三〇〇

候

三更子初〇一〇

四更子正二〇五

五更丑正〇〇〇

攢點寅初一一〇

平旦寅正〇〇二

白

二〇八

初昏戌初三〇五

露

四
九

起更戌正〇一三

中

二更亥初二一一

候

三更子初〇〇九

四更子正二〇六

[illegible]

五更丑正〇〇八

攢點寅初二〇八

平旦寅正一〇二

初昏戌初三〇五

起更戌正〇一三

二更亥初二一一

三更子初〇〇九

四更子正二〇六

五更丑正〇〇四

攢點寅初二〇二

平旦寅正〇一〇

初昏戌初三一一

清

初昏戌初三一一

寒

初昏戌初〇一四

春

初昏戌初三〇五

秋

初昏戌初一〇六

分

起更戌正〇一三

分

起更戌初三〇二

下

二更亥初二一一

下

二更亥初一一〇

候

三更子初〇〇九

候

三更子初〇〇三

四更子正二〇六

四更子正二一二

四更子正二一二

五更丑正〇〇四

五更丑正一〇五

五更丑正一〇五

攢點寅初二〇二

攢點寅初三一一

攢點寅初三一一

平旦寅正〇一〇

平旦寅正二〇九

平旦寅正二〇九

初昏戌初三一一

初昏戌初〇一四

初昏戌初〇一四

明_{二四八}

起更戌正一〇五

露_{二四八}

起更戌初二一〇

上

二更亥初三〇〇

上

二更亥初一〇六

候

三更子初〇一〇

候

三更子初〇〇二

四更子正二〇五

四更子正二一三

五更丑正〇〇〇

五更丑正一〇九

攢點寅初一一〇

攢點寅正〇〇五

平旦寅正〇〇二

平旦寅正三〇一

清_{一三八}

初昏戌正〇〇六

寒_{一八九}

初昏戌初〇〇八

明_{二七}

起更戌正一一一

露_{二七七}

起更戌初二〇四

中

二更亥初一〇四

中

二更亥初一〇二

候

三更子初〇一一

候

三更子初〇〇一

四更子正二〇四

四更子正二一四

五更丑初三一一

五更丑正一一三

攢點寅初一〇四

攢點寅正〇一一

平旦寅初三〇九

平旦寅正三〇七

清

二〇三

初昏戌正一〇〇

寒

二〇三

初昏戌初〇〇二

明

二〇九

起更戌正二〇三

露

二〇九

起更戌初一一二

下

二更亥初三〇八

下

二更亥初〇一三

候

三更子初〇一三

候

三更亥正三一四

四更子正二〇二

四更子正三〇一

五更丑初三〇七

五更丑正二〇二

攢點寅初〇一二

攢點寅正一〇三

平旦寅初三〇〇

平旦寅正三一三

穀

二〇七

初昏戌正一〇七

霜

二〇九

初昏酉正三一

五更丑初三〇〇

攢點寅初〇〇〇

平旦寅初二〇〇

穀

〇七〇四

初昏戌正二〇八

雨

五三四五

起更戌正三〇六

下

二更亥正〇〇四

候

三更子初一〇一

四更子正一一四

五更丑初二一一

攢點丑正三〇九

平旦寅初一〇七

立

一〇四

初昏戌正三〇二

五更丑正二〇九

攢點寅正二〇〇

平旦卯初〇〇九

霜

〇一〇七

初昏酉正三〇〇

降

五三四五

起更戌初〇〇九

下

二更亥初〇〇二

候

三更亥正三一

四更子正三〇四

五更丑正二一三

攢點寅正二〇六

平旦卯初一〇〇

立

一一〇

初昏酉正二一〇

夏

三五

起更戌正三一

上

二更亥正〇〇七

候

三更子初一〇二

四更子正一一三

五更丑初二〇八

攢點丑正三〇三

平旦寅初〇一三

立

一〇四

初昏戌正三〇九

夏

三二四

起更亥初〇〇二

中

二更亥正〇一〇

候

三更子初一〇三

四更子正一一二

冬

三五

起更戌初〇〇三

上

二更戌正三一四

候

三更亥正三一〇

四更子正三〇五

五更丑正三〇一

攢點寅正二一二

平旦卯初一〇五

立

一〇七

初昏酉正二〇六

冬

三二四

起更酉正三一三

中

二更戌正三一

候

三更亥正三〇八

四更子正三〇六

滿

四入
三六

起更亥初〇一二

雪

四八
三六

起更酉正三〇三

上

二更亥正一〇一

上

二更戌正三〇五

候

三更子初一〇五

候

三更亥正三〇七

四更子正一一〇

四更子正三〇八

五更丑初一一四

五更丑正三一〇

攢點丑正二〇三

攢點寅正三一二

平旦丑正三〇五

平旦卯初二〇二

小

〇〇
三五

初昏亥初一〇一

小

〇一
三三

初昏酉正一一〇

滿

〇〇
二二

起更亥初一〇一

雪

〇〇
二二

起更酉正二一四

中

二更亥正一〇四

中

二更戌正三〇二

候

三更子初一〇六

候

三更亥正三〇六

四更子正一〇九

四更子正三〇九

五更丑初一一一

攢點丑正一一四

平旦丑正二一四

小

〇八五

初昏亥初一〇七

滿

一八一

起更亥初一〇四

下

二更亥正一〇五

候

三更子初一〇七

四更子正一〇八

五更丑初一一〇

攢點丑正一一一

平旦丑正二〇八

芒

一〇三五

初昏亥初一二

五更丑正三一二

攢點卯初〇〇一

平旦卯初二〇五

小

一〇八一

初昏酉正一〇七

雪

一八一

起更酉正二一一

下

二更戌正三〇一

候

三更亥正三〇五

四更子正三一〇

五更丑正三一四

攢點卯初〇〇四

平旦卯初二〇八

大

一一三

初昏酉正一〇五

種

五四二

起更亥初一〇七

雪

五四二

起更酉正二〇八

上

二更亥正一〇七

上

二更戌正二一四

候

三更子初一〇七

候

三更亥正三〇五

四更子正一〇八

四更子正三一〇

五更丑初一〇八

五更寅初〇〇一

攢點丑正一〇八

攢點卯初〇〇七

平旦丑正二〇三

平旦卯初二一〇

芒

〇〇五
九七

初昏亥初二〇〇

大

一〇九
一七

初昏酉正一〇三

種

〇〇七
四七

起更亥初一〇九

雪

〇〇七
四七

起更酉正二〇六

中

二更亥正一〇八

中

二更戌正二一三

候

三更子初一〇八

候

三更亥正三〇四

四更子正一〇七

四更子正三一

分野

					候	下	種	芒					
							三 四	二 四 五					
平旦丑正一一三	攢點丑正一〇五	五更丑初一〇六	四更子正一〇七	三更子初一〇八		二更亥正一〇九	起更亥初一一〇	初昏亥初二〇二	平旦丑正二〇〇	攢點丑正一〇六	五更丑初一〇七		
					候	下	雪	大					
							三 四	二 四 一					
平旦卯初二一二	攢點卯初〇一〇	五更寅初〇〇三	四更子正三一	三更亥正三〇四		二更戌正二一二	起更酉正二〇五	初昏酉正一〇二	平旦卯初二一一	攢點卯初〇〇九	五更寅初〇〇二		

順天府周賈冀州之域漢劉向言燕地箕尾之分野也自危四度至斗六度謂之析木之次燕之分也

後漢書帝王世紀曰黃帝受命推分星次以定律度自尾十度至斗七度百三十五分而終曰析木之次於辰在寅謂之攝提格於律爲應鍾斗建在亥今燕分野漢書地理志曰尾箕爲燕白池祥右北平及渤海之安次皆屬焉尾四度至斗六度謂之析木之次燕分也新唐書天文志曰尾箕析木之次也共分野自渤海河之北盡河間涿郡廣陽國及上谷漁洋右北平遼東樂浪玄菟古之北燕孤竹無終及東方九夷之國皆析木之分也宋史天文志曰北斗七星第入星曰弼星在第七星右不見漢志主幽州又曰天市垣二十二星在房氏心尾箕斗內宮之內東轸十一星南三星曰燕又曰十二星在房氏心尾箕斗南近九坎各分土居列國之象九坎之東一星曰齊齊北二星曰趙趙北一星曰鄭鄭北一星曰越越東二星曰周周東南北列二星曰秦秦南二星曰代代西一星曰晉晉北一星曰韓韓北一星曰魏魏西一星曰楚楚南一星曰燕燕史地理志曰燕分野旅賁爲析木之津故名析津縣金史縣志曰燕分析木之次辰在寅按周禮保章氏以星土辨九州之地漢書天文志等皆詳言之而考成前後編專測北極高度以推算友永短節氣遲早至分野占候略而不講且舊說紛如無憑測驗僅撮大略并附采諸書以備攷

如皐戴應泰校

天文表校勘記

小數相差在五秒以下者仍之餘悉更正如左

首頁

日入後八刻起更日出前九刻攢點二語應移置平旦句下

第二表

雨水後五日臥表影四〇六五六應作四二一二六

清明日臥表影七三三九七應作七三三九〇又後五日臥

表影七八九四〇應作七八九三二

穀雨後五日臥表影九八二六〇應作九八二四九又後十

日臥表影一〇八〇三一應作一〇五五七二

第三表

正月雨水日帳正太陽平景偏度二八四二八應作二八〇三〇

又己未正太陽方位正南偏南應作正南偏東又平景偏度

三五一三應作三五〇五

三月穀雨日帳正太陽上邊視高三〇一三五應作三〇二五〇

又己未正平景偏度三八三八應作三八四三八

第五表

五月夏至日帳正太陽平景偏度〇〇

四一應作〇〇 四九一五

立秋上候平旦寅初一〇三應作寅初〇一三

清明中候二更亥初一〇四應作亥初三〇四

立冬中候三更亥正三〇八應作亥正三〇九

小雪中候五更丑正三一二應作丑正三一一三

大雪中候平旦卯初二一一應作卯初二一二又下候平旦

卯初二一二應作卯初二一三

按以表景測太陽除地半徑視半徑二差外又有蒙氣映卑為高能變表景似亦測景者不可不知也

昆明林紹清校算

地理志十七

光緒順天府志三十五

順天府沿革表

江陰穆至孫纂武進屠寄覆輯

幽冀之域實惟神皋自唐虞以前方圻析合弗可詳矣秦始并燕列在郡縣終始五德沿革莽焉定職方者不稽沿革由夜行之無編也今甄摭先典探討佚棄則壤咸在代有正名竝各附考于左以待後人之采擇其所未達蓋闕如也作沿革表

朝代

統部

郡州國

領縣

虞書

幽州

夏禹貢

冀州

殷商

幽州

周 瓚方

幽州

燕國

春秋

燕國

戰國

燕國

秦始皇二十一年

上谷郡地

秦楚之際

燕國 都薊

漢高帝五年

燕國 都薊

武帝元朔二年

燕郡

元狩六年

燕國 都薊

薊 方城 廣陽

陰鄉 良鄉 安次

文安 按漢志縣四

生 廣歷亡命何良鄉

補 安次 文安三縣今據

元封五年

幽州刺史

燕國

薊 方城 廣陽
陰鄉

昭帝元鳳元年

幽州刺史

廣陽郡 治薊

宣帝本始元年

幽州刺史

廣陽國 都薊

成帝綏和元年

幽州牧

哀帝建平二年

幽州刺史

元壽二年

幽州牧

廣陽國 莽曰廣有

後漢光武建武二年

幽州牧

廣陽國

十三年

幽州牧 治薊

上谷郡 省廣陽入上谷

十八年

幽州刺史

和帝永元八年

起

幽州刺史

廣陽郡 復置

薊 廣陽 昌平
軍都 安次 按前志領薊方

聖帝中平五年

幽州牧

廣陽郡

獻帝建安十八年

冀州牧

廣陽郡

尋有漁陽來入

三國魏文帝黃初中

幽州刺史

燕郡

明帝太和六年

幽州刺史

治涿

燕國

晉

幽州刺史

治涿後移治薊

燕國

治薊

城屬涿郡後漢改方城屬涿省陰鄉入薊昌平軍都由上谷改屬安火由渤海改屬

薊安次 昌平

軍都 廣陽 潞

安樂 泉州 雍奴

狐奴按三國志以下五

縣仍漢舊潞以下五縣魏武有潞陽改屬

薊安次 昌平

軍都 廣陽 潞

趙石勒元年

幽州刺史

燕郡

薊 安次 昌平

軍都 廣陽 按趙復立漁陽

分路安樂泉州
薊奴孤奴屬之

燕

幽州刺史

燕國

元璽元年都薊
光壽元年徙郡

薊 安次 昌平

軍都 廣陽 按十六

志領縣十五薊以下
五縣仍舊舊路以下

趙蓋城志已屬漁陽
此志仍列燕國似誤

下漁陽郡云漁陽魏
武省慕容前燕時復

立屬縣無可攷檢石
趙二十四郡有漁陽

安樂 泉州 薊奴

狐奴 按晉地理志
晉格要城表

同

秦

幽州刺史

燕郡

薊 安次 昌平

軍都 廣陽

說見上

後燕

幽州刺史

燕郡

薊 安次 昌平

軍都 廣陽

說見上

魏

幽州刺史

燕郡

薊 廣陽 良鄉

軍都 安城

按薊廣陽軍都

又有漁陽太守馬融是郡立於石趙之前燕亦仍趙舊耳然則路以下五縣似宜仍屬漁陽爲當今止列五縣又有興集甯集與平青黎吳五縣志據晉書永和三年魏以渤海等流人立悉熱燕國攷魏永和時未得燕地志誤會今

北齊

東北道行臺

燕郡

安城卽安次四縣皆
燕舊良鄉由范陽改
屬省昌平入軍都省
孤奴入薊改雍奴屬
屬漁陽郡又省泉州
入雍奴安樂入薊

周

幽州總管府

燕郡

薊良鄉安次
屬省

隋文帝開皇三年

幽州總管府

幽州

薊良鄉安次

涿雍奴昌平

歸德按齊燕郡領縣
可攷者惟薊良鄉
郵安次歸德四縣廣
陽景字記天保七年
省入薊軍都天平中
置屬昌平郡非燕郡
也屬

薊良鄉

六年

幽州總管府

幽州

薊 良鄉 安次

涿 雍奴 昌平

路 固安 按移固安於故長鄉

縣改固為故

煬帝大業三年

涿郡

薊 良鄉 安次

涿 雍奴 昌平

潞 固安 懷戎 燕州

廢

唐高祖武德元年

幽州總管府

幽州

薊 良鄉 安次

路按薊良鄉安次仍
周舊開皇初廢
陽郡以路雍奴來屬
廢范陽郡以涿來屬
廢昌平郡以
昌平來屬

二年

幽州總管府

幽州

四年

幽州總管府

幽州

涿 固安 雍奴

昌平 懷戎 銘

漁陽舊唐志云隋爲
漁陽縣武德元

年屬幽州而隋志無
之輿地廣記云隋末

置

薊 良鄉 安次

涿 固安 雍奴

昌平 懷戎隋屬
改屬元

州

薊 良鄉 安次

涿 雍奴 昌平

懷戎固安改屬
北義州

六年

幽州大總管府

幽州

七年

幽州大都督府

幽州

九年

幽州都督府

幽州

太宗貞觀元年

幽州都督府

幽州

八年

幽州都督府

幽州

薊 良鄉 安次

范陽 薊奴 昌平

平 懷戎改屬北燕州

薊 良鄉 安次

范陽 薊奴 昌平

漁陽 薊奴 廢元州

固安 北義州廢

薊 良鄉 安次

范陽 薊奴 昌平

漁陽 路 固安

高宗乾封二年

幽州都督府

幽州

歸義復
五

薊 良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

漁陽 潞 固安

歸義 無終

析盧
陽置

武后如意元年

幽州都督府

幽州

薊 良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

漁陽 潞 固安

歸義 無終 武

隆

析安
次置

萬歲通天二年幽州都督府

幽州

薊 良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

聖曆元年

幽州都督府

幽州

薊固節貞鄉改安次

薊陽雍奴昌

平漁陽潞固

安歸義玉田

武隆

中宗神龍元年

幽州都督府

幽州

薊良鄉復改名安次

范陽雍奴昌

平漁陽潞固

安歸義武隆王改

景龍三年

幽州都督府

幽州

田隸
舊州

新良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

漁陽 路 固安

歸義 武隆

睿宗景雲元年

幽州都督府

幽州

新良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

漁陽 路 固安

歸義 會昌
武隆改

元宗開元元年

幽州防禦大使

幽州

二年

幽州節度使

幽州

新良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

四年

幽州節度使

瀋陽 路 固安

歸義 會昌 玉

田

營州改屬

薊 良鄉 安次

范陽 雍奴 昌平

漁陽 涞 固安

歸義 會昌 玉田

三河

析郡縣置

十三年

幽州節度使

昇大都督府按

開元二年建節度使後大都督府即以節

度使領之

十八年幽州節度使

幽州

薊 良鄉 安次

天寶元年

范陽節度使

范陽郡

范陽 雍奴 昌平

潞 固安 歸義

會昌

分范陽置
州以玉田三

河隸

薊 良鄉 安次

范陽 武清 雍奴改

昌平 路 固安

歸義 永清 會昌改

武寧 析薊 廣平 同

薊 良鄉 安次

范陽 武清 昌平

路 固安 歸義

三載 范陽節度使

范陽郡

肅宗乾元元年

范陽節度使

幽州

寶應元年

幽州節度使

幽州

代宗大歷四年

幽州節度使

幽州

德宗建中二年

幽州節度使

幽州

永清

省武南廣平入薊

薊 良鄉 安次

范陽 武清 昌平

路 固安 歸義

永清 廣平 按新書地理志

云至德後復置姑繫于此

薊 良鄉 安次

武清 昌平 路

永清 廣平 范陽置

路要固安縣之

薊 幽 薊 良鄉

梁

幽州節度使

幽州

安次 武清 昌平

平 潞 永清 廣

平

薊 幽都 良鄉

安次 武清 昌平

潞 永清 玉河

劉仁恭 廣平 方輿

廣平 後省入薊 縣按

地理 順天府 宛平縣 西

練地 當入 幽都 非獨

也 省置 亦無 年月 而

新舊 唐書 均載 遼志

無之 疑五代 時省 若

宋志 之廣 平乃 宛平

耳

唐莊宗同光二年

幽州節度使

幽州

薊 幽都 夏鄉

安次 武清 燕平

按清類天文分野之書同光二年改昌平曰燕

遼太宗會同元年

南京道

幽都府盧龍軍

薊北 幽都 昌平

按清類天文分野之書云石晉復昌平舊

名割地 良鄉 路

安次 永清 武清

玉河 香河 折武

順州領縣均表於本州此不載下同

檀州 涿州 薊州

幽州 莫州 瀛

九年

南京道

幽都府盧龍軍

按莫、遼二州在十
州六州之內南州遼
以乾南軍置遼地理
志無之蓋地已入周
故不載

薊北 幽都 昌平

良鄉 路安次

永清 武清 玉河

香河

順州 檀州 涿州

薊州 甯州 莫

州 瀛州 易州

隋以州
來歸

穆宗應歷九年 南京道

幽都府盧龍軍

薊北 幽都 昌平

統和七年
南京道

幽都府盧龍軍

夏鄉 路安次

武清 玉河 香

河

順州 檀州 涿州

薊州 隋莫瀛易四州并永清均

入於周

薊北 幽都 昌平

夏鄉 路安次

武清 玉河 香

河

順州 檀州 涿州

薊州 易州 復取來馬

聖宗開泰元年

燕京

析津府

析津改宛平改

昌平改良鄉路

安次武清香河

玉河

順州檀州涿州

易州薊州

太平中

燕京

析津府

析津宛平昌平

良鄉路安次

武清香河玉

河改灤陰改

順州檀州涿州

易州薊州

興宗重熙元年 燕京

析津府

析津 宛平 昌平

良鄉 潞 安次

武清 香河 五

河 灤陰

順州 檀州 涿州

易州 薊州 景

州 以薊州遷化復
宋志無王河似遼

省末

宋徽宗宣和五年

燕山府

廣陽郡永濟軍

析津 宛平 宋志誤
作廣平

都市 賜名廣甯 按
北盟錄 謂時似置于

遼時而析津之年月
并析于何縣省入

何縣均無所攷

金太宗天會三年

燕京

析津府

昌平 良鄉 潞

武清 安次 三河

香河 賜名清化 灤陰

析津 宛平 昌平

安次 潞 灤陰

永清 復置 香河 武清

良鄉 三河

薊州 降遼薊州爲遷化縣

易州 順州 涿州

樂州 新信安軍屬

省檀州入密雲

七年 河北東路

析津府

海陵天德三年

河北東路

析津府

析津 宛平 昌平

安次 永清 香

河 武清 良鄉

灤陰

通州新置以路
三河隸之 薊州

易州 涿州 順

州 灤州 信安軍

貞元元年

中都初名
望都

大興府

大興析津
改 宛平 安

次 灤陰 永清

香河 昌平 武清

良鄉

通州 薊州 易州

貞元二年 中都

世宗大定七年 中都

大興府

大興府

涿州 順州 平

州新灤州 信安軍

大興 宛平 安次

灤陰 永清 香

河 昌平 武清

良鄉

通州 薊州 易州

涿州 順州 平

州 灤州 雄州新

霸州新 信安軍

大興 宛平 安次

灤陰 永清 香

河 昌平 武清

夏鄉

通州 薊州 易州

涿州 平州 灤

州 雄州 霸州 信

安為縣

大興 宛平 安次

涿州 永清 寶

城 香河 平

武清 夏鄉

通州 薊州 易州

涿州 順州 平

十二年中都

大興府

章宗承安三年

中都

大興府

灤州 雄州

霸州

大興 宛平 安次

鄆陰 永清 昌

平 良鄉 寶坻

州未改屬
幾復香河未幾復

武清改屬
未幾復

通州 薊州 易州

涿州 順州 平

州 灤州 雄州

霸州 元光元年升信

中都

已陷

元太祖十年

燕京路總管

世祖中統四年

燕京路總管

大興府

大興府

大興 宛平 夏鄉

安次 永清 寶

坻 昌平 灤陰

香河 武清

涿州 霸州 通州

薊州 順州 檀

州密雲改置 憲宗改回安屬大興府未幾仍屬涿州

大興 宛平 夏鄉

永清 寶坻 昌

平 灤陰 香河

武清

至元元年 中都

大興府

九年 大都

大興府

十三年 大都

大興府

涿州 太宗六年升涿州路今復

霸州 通州 薊州

檀州 東安州 安次

升固安州 固安升

大興 宛平 良鄉

永清 寶坻 昌平

平

涿州 霸州 通州

薊州 朔州 朔州縣升

改武清香河屬之

二十五年直隸中書省

明太祖洪武元年

山東行省

大都路總管府

北平府

順州 檀州 東安

州 固安州

大興 宛平 良鄉

永清 寶坻 昌

平

涿州 霸州 通州

薊州 鄆州 順

州 檀州 東安州

固安州 龍慶州

奉聖州 薊
山縣升

大興 宛平 良鄉

固安州 永清 寶

坻 東安州 昌平

順義州 懷柔十

月省入懷柔州 密雲十

十二月復置 十二月復置

通州 霸州 鄆州

涿州 薊州 慶府

永平府

二年 北平行省 北平府

九年 北平承宣布政使司 北平府

十年 北平承宣布政使司 北平府

大興 宛平 良鄉

固安 永清 寶

坻 東安 昌平

順義 懷柔 密雲

香河

由通州改屬

通州 霸州 鄆州

涿州

薊州

抵

改屬通州

大興 宛平 良鄉

固安

永清 東

安 昌平 順義

懷柔 密雲

通州 霸州 涿州

薊州

降薊州爲縣屬通州

成祖永樂元年

北京行在

順天府

十九年京師

順天府

仁宗洪熙元年

北京行在

順天府

英宗正統六年

京師

順天府

武宗正德八年

京師

順天府

國朝順治元年

京師順天府

安香河

固安永清東

天興宛平良鄉

通州霸州涿州

昌平州元年縣升

改順義懷柔密雲屬昌平州薊州

大興宛平良鄉

固安永清東

安香河

康熙十五年京師順天府

二十七年京師順天府

雍正六年
京師順天府

四路同知

四路同知

通州
霸州
涿州

昌平州
薊州

大興宛平良鄉

固安 永清 東

安香河

通州
霸州
涿州

昌平州
薊州

遵化州升縣

大興宛平良鄉

固安 永清 東

安
香河
遵化州

通州 昌平州

涿州 霸州五州均
屬縣

薊州 三河 武清

寶坻 順義 懷

柔 密雲 房山

大城 文安 保定

均直隸
順天府

大興 宛平 良鄉

固安 永清 東

安 香河 通州

昌平州 涿州 霸

州 薊州 三河

九年 京師順天府

四路同知

乾隆八年

京師順天府

四路同知

武清 寶坻 順義

懷柔 密雲 房

山 大城 文安

保定 遵化州 南

河 析 寶
坻 置

天興 宛平 良鄉

固安 永清 東

安 香河 通州

三河 武清 寶坻

南河 昌平州

順義 密雲 懷柔

涿州 房山 霸

州 文安 大城

保定 薊州 平谷

改直隸順天府 遵化改直隸布政使司

禹貢冀州之域

大清一統志

其在額頊時曰幽陵

杜佑通典額頊都於帝印

其地北至幽陵

按史記燕王于幽陵居北城燕帝堯時曰幽都遼史地理志陶唐曰幽

州史記正義引括地志云故燕城在檀州燕樂縣界故老傳云舜

流其工于幽州居北城燕帝堯時曰幽都遼史地理志陶唐曰幽

樂今密雲縣東北七十里

帝堯時曰幽都遼史地理志陶唐曰幽

方曰不周之山曰幽都之門注幽閭也

都帝舜時分冀爲幽州平

聚也元冥將始用事順陰故曰幽都之門

帝舜時分冀爲幽州平

御覽引晉地道記舜以冀州南北廣大分燕地北地爲幽州

史

記集解引鄭元尚書注舜以青州越海而分齊爲營州冀州南北

雅

太遠分衛爲并州燕以北海爲幽州也

夏商時皆爲冀州地正義禹貢無

幽并二州則幽并

殷復曰幽州亳復舜幽州之名爾雅燕曰幽

州之地并入於冀

周因殷之舊亦曰幽

州注自易水至北狄邵正義職方并州其浸

周因殷之舊亦曰幽

州易祓周禮總義周人又以幽州兼殷之營州

周禮東北曰幽

周禮幽州多入禹貢之青州醫無閭郡國志遼東屬國下無慮有
醫無閭山無慮乃夫犁之訛獫狁地志瑯琊郡長廣下云奚養
澤乃在西幽州藪苗地理志泰山郡萊蕪下云原山苗水所出幽
州漫時地理志千乘郡博昌下云時水東北至鉅定入馬車漬幽
州漫時地理志千乘郡博昌下云時水東北至鉅定入馬車漬幽
青州齊郡地武王封黃帝之後于薊郡薊縣是也釋文音計今涿
城西北隅有薊又封召公于北燕史記集解居北燕宋忠曰有南
邱故以名之薊又封召公于北燕史記集解居北燕宋忠曰有南
儒本無定說有謂燕薊者漢書曰薊故燕國召公所封小司馬
曰北燕即今幽州薊縣是也范逸齋主其說詩補傳云薊之改
燕猶唐之改晉荆之名楚然小戴記謂武王封黃帝之後于薊
記周本紀及水經注又謂封帝堯之後于薊黃帝姬之於燕然兩
何得混同有謂召公即堯後者陸德明謂黃帝姬之於燕然兩
竹垞主其說曰下舊聞云禮記所指即召公史記之稱堯後者因
堯亦黃帝裔之故然穀梁傳云燕周之分子帝王世紀直以召公
爲文王子固誤而要與周同族無疑堯後之言豈爲確據有謂薊
絕更封者胡邦衡云武王西莊王所封之薊不七史商榷云成王
封其說本之釋文王西莊王所封之薊不七史商榷云成王
尙在朝未就封則武王下車所封必非召公以德明後說爲是然
帝堯之後隨卽滅絕殊無明據且周公封魯亦輔王室執此例彼
未可爲召公琬封之證惟張守節以堯後封薊因薊得名卽今
府治召公封燕因燕山得名在今薊州薊縣微燕盛并薊居之薊
遂絕其說較長陳與毛詩傳疏云召公封燕以山爲名其後并薊
富在成王之世武庚之叛東夷八國并興成王既誅武庚及八國

以奄益魯以毫姑益齊以薊益燕三國爲三公故皆得就上公之位
終子國謂燕無終不能同時立國因耗守節之說然左傳襄公
終年無終子使孟樂如晉因流莊子納虎豹之文以詩和諸戎昭公
元年晉中行穆子敗無終及羣狄於太原則去薊千有餘里豈無
終之國先任雲中代郡之境而後遷於右北平與之鄰如少時
縣水經注文公徙易景字記卽今永水縣是由燕徙易由易徙薊
或徙國之後故地遂入於山戎春秋之初病燕屢矣燕盛并薊遂
遷薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊薊
治其後侵大門漢志東有漁陽右北平遼西遼東略北燕都薊幽州
縣良鄉新昌及渤海之安次皆燕分也樂浪元菟亦宜屬焉張
琦釋地燕地自今直隸保定薊州以及宣化以東至朝鮮北有塞
外故開平大南等地代三十六世與六國俱稱王惠侯以下八世
雁門屬趙非燕地也至莊公始稱公自莊公以秦始皇二十一年取燕薊城
下十九世至易王始稱王滅燕以燕之西陲爲上谷郡經水
十一年王貞攻薊乃益發卒詣王滅燕以燕之西陲爲上谷郡經水
薊軍遂破燕太子軍取燕薊城滅燕以燕之西陲爲上谷郡經水
燕水注引王隱地志記都在谷之頭故以上谷名焉全祖望地
理志稽疑燕之五郡皆燕所舊置以防邊也漁陽四郡在東上谷在

西而其國都不與焉自蒯至涿三十餘城始皇無不置郡之理亦
無反并內地於邊郡之理且始皇之并六王也其國都如趙之邯
鄲魏之陽楚之江陵陳之九江齊之臨淄無不置郡者何以燕獨
無之水經注始皇二十三年置廣陽郡高帝改爲燕又分置涿郡
郡道元之言當必有據則前志以爲昭帝始改廣陽者殆攷之未
詳其近人顧炎武主漢志以爲水經余則謂漢志明失黔中楚郡
矣安保其不失廣陽而廣陽之爲秦郡又以例推之而可信者按
以廣陽爲秦郡其諸家異而其說甚辨錄此備攷然先生所據僅
水經漢水注一語耳楚漢之際爲燕國高帝五年屬漢仍爲燕國
文孤證終恐未安耳
史記月表二世元年九月韓廣爲趙略地至薊自立爲燕王史
索隱項羽分封爲二威荼爲燕王廣爲遼東王史記盧縮傳漢
五年七月從擊燕王威荼威荼降八月乃立盧縮爲燕王史記
高祖紀十二年子建爲燕王史記呂后紀七年九月燕靈王建
葬無後國除八年九月徙立呂肅王子呂通爲燕王又分置涿郡
史記文紀元年十月徙立故邯鄲王澤爲燕王按寰宇記云呂后誅建
子尋又分燕國之地置涿郡及廣陽國考涿郡建白高帝六年廣
陽宣帝末始元年由郡改國武帝元朔二年爲燕郡疑高帝六年
均非蓋自呂后時寰宇記誤武帝元朔二年爲燕郡按地理志
屬漢仍爲燕國武帝元朔二年爲燕郡按地理志無燕郡而徐
樂傳言燕郡無終人考燕王定國以元朔二年秋自殺國除至元
帝六年四月始立皇子旦爲燕王蓋其間爲燕郡者二元狩六年
十年而志載之史記荆燕世家明言國除爲郡可證

更爲國

史記三王世家元符後置十三州改爲幽州漢書百官表

刺史

北置朔方之州兼徐梁幽并夏周之制改雍曰涼改梁曰益凡十

刺史

領十郡一國理於此尋開拓東邊又置元菟樂浪二郡

記武帝

置十三州改爲幽州置郡國十理於此按漢志勃海上谷

宇記言

郡國十疑落一字漢地理志積疑沈約宋書州郡志曰

前漢制

史未有所治劉昭注漢地理志亦云傳車周流靡有定止則其

但行部

而無公府明矣然而師古引漢官舊儀曰刺史有常治以

秋分行

部則疑沈劉之說未必然也夫以秋分行部則未及秋分

以前豈

皆屬京師乎是必有定止矣志於太守之治則首縣是也

於郡尉

之治則亦書而獨刺史之治不書何歟曰前漢之刺史僅

六百石

官卑故不書耳交廣春秋刺史治嘉陵元封五年移治蒼

梧之廣

信是前漢刺史之可考者矣按漢書朱博傳使者行部

還詣治

所師古注治所刺史所止理事處與師古武紀注元鳳元

引漢舊

儀合此章字記云幽州理燕亦治所之可攷者

年改燕

國爲廣陽郡宣帝本始元年又改爲國續漢書郡國志廣

陽郡

漢昭帝更名爲郡漢諸侯王表本始元領薊方城廣陽陰鄉四

縣都薊

按漢地理志縣四薊方城廣陽陰鄉王鳴盛十七史商

三縣其後昭帝時又益封萬三千戶其下支卽云發民大庫文安
縣則昭帝時益封已還其所削縣矣其後謀反發覺自殺國除今
地志大字無燕國而安次文安則屬勃海郡襄鄉縣國郡可見
燕國除後其縣入此二郡而二郡注皆云高帝置不入燕陽右北平等
後尚不止二郡之衍乎必不可又且傳宣帝又封且太子建爲廣陽
郡者不止二郡今皆不可攷又且傳宣帝又封且太子建爲廣陽
王傳至莽不絕志有廣陽國注云高帝燕國昭帝元鳳元年爲廣
陽郡宣帝本始元年更爲國屬縣只四縣首縣薊下注云故燕國
召公所封旦令羣臣亦曰燕雖小召公建國則薊必是且所都元
鳳之廣陽郡卽燕國除爲之及更爲國嫌太大故又割入勃海等
郡僅存莽曰廣有水經漂水注光武建武二年仍爲廣陽國十三
四縣也莽曰廣有水經漂水注光武建武二年仍爲廣陽國十三
年省入上谷郡後漢趙孝王良傳建武二年封良爲廣陽王和帝
永元八年復置廣陽郡後漢和帝紀八年九月復置廣陽郡注和
帝本始元年更爲國也按郡國志劉昭志補作永平八年爲廣陽郡宣
元爲平也魏書地形志作永元六年案字記作永元元年均係字
誤方輿紀要乾隆府廳州縣圖志均省陰鄉入薊改方城屬永以
作永平八年誤從志今以和紀爲據省陰鄉入薊改方城屬永以
上谷之昌平軍都渤海之安次來屬續漢郡國志昌平軍都故幽
州刺史與郡同理通典後漢置幽州並建安十八年改屬冀州志

廣陽路安樂泉 晉永嘉後陷於石勒勒僭號襄國於薊置幽州於

州薊奴孤奴 晉書載記劉聰以石勒爲幽州牧聰又以勒領幽州史

州置燕郡 州牧建興二年勒破王浚以晉幽州牧聰又以勒領幽州史

軍領薊郡 四范陽燕上谷代置郡漁陽太守馬鮪降虎徙遼西漁

廣陽復分置漁陽郡 四年段遼陽太守馬鮪降虎徙遼西漁

陽北平萬餘戶於充豫雍洛四 割路安樂泉州雍奴狐奴五縣隸

州之地是後道有漁陽郡也 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

之按縣以下五縣本屬漁陽 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

引前燕錄僞光壽元年十一月 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

燕前部碣石宮漢爲薊縣舊置 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

州前燕奴域志燕國領縣十五 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

見表與集五縣志據慕容儁記 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

立國在和龍今永平府境至其 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

統在位未得今燕地也則所云 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

燕國悉調和龍列之燕屬殊誤 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

記以郭慶爲持節都督幽州諸 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

州郡之名無改 慕容儁當都此按晉書元璽元年僞

亦有漁陽路以下五縣仍非燕屬後燕臺城志燕郡領縣十蓟

安次昌平軍都廣陽縣郡安樂泉州雍奴志又列漁陽郡云縣

無攷按洛以上後魏道武破慕容寶復於蓟立燕郡又於郡理置

幽州魏地志領郡省昌平入軍都以范陽之良鄉來屬又改安

次爲安城魏地志良鄉二漢屬東魏天平中復置昌平縣爲昌

平郡屬東燕州北齊置東北道行臺天保七年省廣陽良鄉入蓟

武平六年復置良鄉縣寰宇記北齊於州置東北道行臺按北

可攷者蓟廣陽良鄉安次歸德五縣後周置總管府周書武帝紀

後省廣陽入蓟燕郡僅領四縣耳後周置總管府建德六年二

月於河陽幽南充豫徐北朔定置總管府按寰宇記云後周

改置燕范陽二郡而燕郡建自後趙范陽置自元魏均至開皇間

始廢後周有此二郡非改置也周幽州領燕范陽上谷三郡隋開

皇初廢漁陽郡以潞雍奴來屬廢平昌郡以昌平來屬二年廢范

陽郡以涿縣來屬三年燕郡廢以所領縣屬州總管如故隋開皇

三年廢郡所領五縣屬州五縣今可攷者蓟良鄉安次本幽州屬

縣涿縣自二年改屬共四縣餘一縣或潞或昌平均開皇初改屬

未知孰是
 業三年改州為郡
 縣之州與今
 之各府同
 六年移故安於故襄鄉縣來屬改曰固安
 改焉煬帝初廢總管大業三年廢幽州改置涿郡廢燕州以懷戎
 來屬隋志煬帝紀三年改郡為州地志理志涿郡統縣九薊良鄉安
 州屬范陽郡詔雍奴昌平懷戎涿郡昌平郡懷戎本屬涿
 州因安開皇六年徙故安於長鄉縣改涿郡曰范陽郡隋開皇初廢
 自漢高帝置涿郡而治涿縣曹魏改涿郡曰范陽郡隋開皇初廢
 范陽郡大業初併燕范陽置涿郡治薊而涿縣屬焉此郡名廢置
 隋治離合之辨也
 隋開皇廢燕郡以領縣屬幽州大業三年罷州以其地併入涿郡按
 有范陽郡亦廢開皇初無涿郡也今又割漁陽郡之漁陽來屬
 涿郡即幽州舊治新置並非併入
 陽隋志無此縣舊唐地理志云隋末置唐初復為幽州仍置總
 武德元年屬幽州與唐地理志云隋末置唐初復為幽州仍置總
 管府新書地理志高祖改郡為州太守為刺史
 管府元年改為幽州總管府管由易平檀燕北燕縣隋志武德
 營遼等八州幽州鎮良鄉薊洛涿固安雍奴安次昌平八縣按二
 隋九縣店改懷戎縣置北義州在武德七年此時尚屬幽州
 年又置元州潞漁陽隸之仍隸總管府自稱幽州總管至武德二

年歸唐舊志襄宇記四年改固安隸北義州六年改大總管府

皆元年仍羅氏之舊也

七年改大都督府改派曰范陽改懷戎隸北燕州

新書百官志武德初遷之

孟總管以統軍七年改總管九年改大都督爲都督幽易景瀛東

鹽滄潞蒲蠡北義燕營遼平檀元北燕等十七州貞觀元年廢元

州以潞漁陽二縣來屬

新書地理志武德二年自無終徙漁陽於此置元州領潞漁陽並置臨胸縣貞觀

元年州廢省臨胸無又廢北義州以固安來屬

舊書地理志固安武德四年屬北義

州移治草信城貞觀元年省屬河北道

唐六典十道四曰河北新書地理志河北道固爲

析木八年復置歸義來屬高宗乾封二年析漁陽置無終縣武后

如意元年析安次置武隆縣萬歲通天二年改無終曰玉田

袁宇記乾

封二年於廢無終縣置無終縣

聖曆元年改良鄉曰固節中宗神

龍元年改玉田隸營州復改固節爲良鄉睿宗景雲元年改武隆

曰會昌元宗開元元年置幽州防禦大使開元二年置幽州節度

使

新書方鎮表開元元年置幽州防禦大使二年以營州之玉田

來屬

四年析潞置三河縣按三河新書地理志遼志寰宇記均云

龍

三年三河下又云開元十三年昇爲大都督府十八年分漁陽

玉田

三河置薊州天寶元年改爲范陽郡新書地理志幽州范陽

寶元

年更名舊書地理志天寶元年改范陽郡屬范陽上谷

元改

下有爲更幽州節度使爲范陽節度使新書方鎮表更幽州

字今

據南更幽州節度使爲范陽節度使新書方鎮表更幽州

表增

領歸德歸順二部按舊志作歸化邵本歸化州天寶改名也

塞恒

陽北平高陽唐興橫海九軍屯幽冀媽攬易改雍奴曰武清

會昌

曰永清析薊置武甯廣平二縣三載復省武甯廣平入薊

地理

志天寶元年析乾元元年復改郡曰幽州縣十薊路雍奴漁

張宗

泰曰所列止九縣當是脫安次也寶應元年復爲幽州節度

又兼

盧龍節度使安祿山事蹟天寶十五載僞即帝位國曰大燕

書史思明傳二年正月史思明僭稱大聖周王四月更國號大燕
自稱應天皇帝改范陽爲燕京舊書李懷仙傳寶應元年授幽
州大都督府長史檢校侍復置廣平縣新書地理志廣平元年析
中州盧龍等軍節度使復置廣平縣新書地理志廣平元年析
代宗大曆四年置涿州分歸義固安隸之德宗建中二年析薊

幽都縣乾甯中爲劉仁恭所據仁恭析薊置玉河縣通鑑地理通

十一國北有燕劉仁恭五代史記雜傳仁恭子守光開平元年

自外將兵入自稱盧龍節度使乾化元年自號大燕皇帝改元曰

應天後唐仍置幽州節度使順平營瀛莫梁檀薊州同光二年改昌

平曰燕平晉天復中復燕平曰昌平表說見割入於遼遼史太宗紀

莫涿檀順焉儒新武雲應朔袁蔚十六州全祖望燕雲失地攷

宋宣和時與女真夾攻遼因求晉賂契丹故土初謂可盡山前後

地而不思平營濶三州非晉賂乃劉仁恭獻契丹以求援者既而

王麟悔欲并得之遣趙良嗣往請再三女真終以非晉賂不與是

宋史所記也改劉仁恭帥盧龍未嘗與契丹通惟資治通鑑載守
光末年衰困會遣韓延徽乞師然亦無割地事梁乾化三年四月
晉劉光胤拔燕平州執刺史張在吉五月攻營州刺史楊筠降則
平營未割之明證也其失平營肇於周德威爲帥時通鑑謂幽州
七百里有榆關舊置八防禦軍募土人守之以禦契丹德威侍勇
不修邊備遂失渝關之險契丹每芻牧於營平之間而遼史太祖

天贊二年春正月丙申大元帥克骨克平州獲刺史趙思溫裨將
張崇二平如平州甲子以平州為盧龍軍置節度使則平營遼入
契丹矣至遼州則古無之劉守光據燕暴虐民多亡入契丹阿保
機乃築此城陴路至石晉初德光又得平州為遼與府而營遼二
州隸之號平州路燕京路乃海上關內而異路也故驕致有張
關內之地實離不知燕山平州入寇雖關內然平營在天贊後又嘗
入唐則諸家皆失攷攷史明宗天成元年十月庚子幽州奏契
丹貞武節度使盧文進來奔初文進為契丹守平州帝即遣契
使說之以易代之後無復怨嫌文進所部皆華人思歸乃殺契丹
守平州者其眾十餘萬車帳八千乘所部皆華人思歸乃殺契丹
陷平州如不復歸中國耳但當時石晉所略地實不止十六州通
鑑齊王萬選元年三月辛卯馬全節攻契丹泰州拔之以五代會
要致之泉州後唐之奉化軍今清苑縣則泰州亦所略地也是年
六月契丹由府州刺史折從阮拒之故有是命則府州亦所略地
也二年振武節度使折從阮擊契丹之勝州胡三省注
勝州不係天福中所割數內蓋契丹乘勝并取之是勝州亦所略
內也載攻金國節要則易州景州亦在略地是史所云十六州者
亦或未盡至蔚州刺史張彥超本沙陀人嘗為契丹所有明宗長
三年十一月蔚州刺史張彥超本沙陀人嘗為契丹所有明宗長
有隙聞敬塘為總管舉城於契丹契丹以為大節度使當時
不過枕舉言之否則史誤書也若周世宗克復關南則營莫易景

已內附又奪瓦橋關爲雄州割容城歸義二縣隸之
益津關爲新州割文安大城二縣隸之
乾城縣爲縣
內附是山前之地多收復乃宣和時尙云山前山後一十七州則
以由武雲應景順順爲山後地也
媽儒武雲應景順順爲山後地也
京幽都府置南京道官志云天顯元年以幽州爲南京與本紀地
以幽州爲南京是改元後事百官志誤也
北九年孫方簡以易州三縣來歸穆宗應祿九年周世宗取易州
復三關以白溝河爲界聖宗統和七年復取易州
其地來降應祿九年爲周世宗統和元年落單額改燕京曰析津府
宗所取統和七年攻克之
改薊北曰析津幽都曰宛平太平中析潞置鄆陰析武清置香河
遼聖宗紀改元開泰改幽都府爲析津府興宗重熙中於遵化縣置
府薊北縣爲析津縣幽都縣爲宛平縣
景州遵化縣重熙中置鎮縣一遵化燕京統順檀涿易薊景六
州析津宛平昌平良鄉潞安次永清武清香河玉河鄆陰十一縣

宋宣和四年地入於金

金史太祖紀六年十二月伐燕京戊子次居庸關庚寅遼統軍都監高六等來送款

上至燕京甲午命左企

五年歸宋改爲燕山府廣陽郡永清軍節

弓撫定燕京諸州縣

度使金史太祖紀七年二月詔平州官與宋史同分制所與燕京

州二十四縣來歸宣和四年改燕京爲燕山府又改郡曰廣陽節

度日永清軍節所屬平州縣雜縣都昌平良鄉涿武清安次永

清三河香都市賜名廣甯表

見香河賜名清化七年復入金交聘

表天會三年十二月宗望取

太宗天會三年仍名曰燕京析津府

所賜名均復故復置永清縣改屬析津府七年屬河北東路

金地

天會七年析河北爲東

海陵天德三年置通州於路以薊州三河

西路時屬河北東路

隸之貞元元年改燕京爲聖都尋改中都改析津府曰大興府

理志貞元元年以燕乃列國之名不當爲京師號遂改爲中都大

興府元一統志天德三年海陵意欲徙都於燕上書者咸言上

京臨潢府在一隅官報於轉漕民難於赴愬不如都燕以應天

地之中言與意合通命左右丞相張浩張通左丞蔡松年調諸路

民夫築燕京制度如汴詔曰燕本列國之名今立

改析津曰大興

京師不當稱燕京改號中都

以析津府爲大興府

以平州轉運司并屬中都自會館遷都於此

楊王江上錄岐王亮

內史梁漢臣本宋內侍進曰燕京自古霸國虎視中原爲世之基

陛下立修燕京時復巡幸遂納其言差漢臣充修燕京大內正使

孔彥舟爲副使自天德四年起至貞元元年

年畢工以燕京爲中都擇日遷燕山府

都世宗大定七年降信安軍爲縣隸霸州十二年析香河置寶坻

縣章宗承安二年升寶坻爲盈州分香河武清隸之未幾復故元

太祖十年爲燕京路總管大興府如故憲宗以涿州之固安來屬

太宗六年升涿州爲涿州路世祖中統四年仍爲涿州升東安

次固安爲州均隸燕京路至元元年建改中都四年徙都之

紀至元元年八月乙卯詔改燕京爲中都其大興府仍舊

紀事年表至元元年劉秉忠請定都於燕主從之詔營城他及宮

半仍號九年改曰大都元史世祖紀至元元年十三年升鄴陰

爲中都

爲鄴州以武清香河隸之十九年置留守司二十一年置大都路

總管府爲中書省治

元史崔瑗傳至元二年十一月崔瑗上疏言大都非如上都止備巡幸不應立留守司宜

置總仁宗延祐三年以奉聖州之繕山爲龍慶州來屬大都路史
 管府志大都路太祖十年克燕初爲燕京路總管大興府世祖至
 地理元年中書省臣言燕京分立省部乞正名遂改中都其大興府
 仍舊四年始於中都之東北置大都路總管府領縣六州十縣
 年置留守司二十一年置大都路總管府領縣六州十縣
 縣領益津文安大城保定通州順州檀州三河薊州固安州雄
 州順化平谷薊州領香河武清順州檀州三河薊州固安州雄
 田遷來元史混一方與勝覽元領大興府一通薊縣霸州以行
 領安肅順州十一方與勝覽元領大興府一通薊縣霸州以行
 後又省安肅順州十一方與勝覽元領大興府一通薊縣霸州以行
 河武清二縣隸於薊州至元二十三年割出雄縣二州屬保定今
 領順安肅順州十一方與勝覽元領大興府一通薊縣霸州以行
 山縣一本屬上都路延祐三年升都路所屬尚有龍慶州領來一縣
 都路元混一方與勝覽元領大興府一通薊縣霸州以行
 所領無保安遠肅大元初併入後乃分保定路中都明洪武元年
 改爲北平府隸山東行中書省將軍徐達改故元都安貞門爲安
 定門健德門爲德勝門是月置大都督降固安東安爲縣順州爲
 分府於北平十月以北平府隸於山東
 順義縣省檀州置密雲縣析密雲昌平二縣地置懷柔縣改龍慶

州屬永平府二年三月置北平行省以北平府隸焉

明地理志元直隸中書省

洪武元年四月分屬河南山東兩行省二年三月置北平

九年爲

等處行中書省治北平府

先隸山東河南者皆復其舊

北平

北平承宣布政使司治

孫承澤春明夢餘錄九年十年復改鄚州

之香河來屬分寶坻屬通州

十三年降鄚州爲鄚縣隸通州永樂

元年升爲北京政府爲順天府

日下舊聞引成祖實錄永樂元年

帝王或起布衣平定天下或由外藩入承大統其於肇迹之地皆

有升崇竊見北平布政司實皇上承運興王之地宜遵太祖高皇

帝中都之制立爲京都制日可其以北平爲北京改北平府爲順

天府明史地理志永樂元年正月建北平府都督府北平稱爲行在

二月罷北平布政使司以所領直隸北京留守行後軍都督府

都指揮使司以所領直隸北京留守行後軍都督府

二月罷北京布政使司十九年正月改北京爲京師日下舊聞攷

詔曰開基創業興王之本爲先繼體守成經國之宜尤重昔朕皇

考太祖高皇帝受天明命建都江左以聲邦基肆朕續承大統惟

懷不圖眷茲北京實爲都會地勢雄偉山川鞏固四方萬國道里

適均惟天意之所屬實卜筮之攸同乃敝古制循輿情立兩京置

郊社宗廟創建宮室上以招皇考太祖高皇帝之先志下以開子

孫萬世之宏規且於巡狩駐守實有便焉爰自營建以來天下軍

民樂於趨事天人協贊景親駢臻今上已告成選十九年正月朔旦御奉天敷朝百官誕新治理用致雍熙於戲天地清甯衍宗社萬年之福山河綏靖隆古不稱行在基仁宗洪熙元年仍稱行在乃命禮部正北京為京師不稱行在英宗正統六年定名京師英宗實仁宗實錄洪熙元年三月命諸英宗正統六年定名京師英宗實司在八月浙江南波府知府鄭瑤言國家肇建兩京合於古制自六年八月浙江南波府知府鄭瑤言國家肇建兩京合於古制自太宗皇帝定鼎北京以來四聖相承正南面而朝萬方四十年於茲矣而諸司文移印章尚仍行在之稱名為實未當請正名京師其奉天殿大教門下改給兩京文武衙門印北京諸衙門去行在二字字南在帖明太祖之元年詔以建康為南京大梁為北京又遣文太行之秦中相度形勢以漕運不便而止尋詔建鳳陽為中都曰吾鄉也然則太祖之意固未嘗終宅吳中也成祖以潛邸發祥之地定鼎燕山始創以巡幸為辭再返舊京道承樂十八年後則定都順歷代猶託以暫駐之名以示將返舊京之意其命官勅命府都督正統六年復申定都之旨然有尚稱行在者以後始漸去然則英廟以前官南京者原未嘗有南京之目後世妄加之耳但古者天子所居即名行在蔡中郎曰天子以四海為家故謂所在為行在所史記衛將軍大將軍同謀建詣行在所漢書趙充國傳詔先國詣行在所孔光傳供養行內止曰行在所之內中言禁中然則後世所稱沿習失攷惟歸熙甫嘗言其說故有因論

有明官制及之今按行在二字正統因鄭瑄之言而去武宗正
改南京諸司爲南京某府某部自有實錄無容作疑辭矣
德元年升昌平爲州旋罷八年復升分順義懷柔密雲隸之明地理志
順天府領州五縣二十二大興宛平良鄉固安永清東安香河通
州三河武清漷縣寶坻霸州文安大城保定涿州房山昌平州順
義懷柔密雲薊州玉
田豐潤遵化平谷

本朝順治元年定鼎京師仍稱順天府領州六縣二十一十五年
省潮縣入通州康熙十五年升遵化爲州二十七年從直隸總督
于成龍之請特設四路同知雍正三年改武清隸天津州四年復
來屬改薊州之玉田隸永平府五年改三河武清寶坻順義懷柔
密雲房山大城文安保定均直隸順天府九年析寶坻置甯河縣
乾隆八年升遵化爲直隸州改平谷直隸順天府今領州五縣十
九以四路同知分轄焉

西路廳屬沿革表

魏	三國	後漢	漢	秦	周	
	幽州	幽州	幽州	幽州		
	薊縣 治燕國薊縣西境	薊縣 廣陽省陰鄉縣西境	薊縣 廣陽縣治	薊縣 廣陽縣治	薊國 都此	大興
			陰鄉縣 折			宛平
	涿縣 范陽郡治	涿縣 范陽郡治	涿縣 治		涿邑 燕屬	涿
	廣陽縣 屬燕	廣陽縣 屬	廣陽縣 屬		中都 燕屬	良鄉
	良鄉縣 屬	良鄉縣 屬	良鄉縣 屬			房山

晉

幽州

薊縣

治燕國

薊縣西境

涿縣

治范陽國

廣陽縣

屬燕國

良鄉縣

屬范陽國

後趙

幽州

薊縣

治燕郡

薊縣西境

涿縣

治范陽郡

廣陽縣

屬燕郡

良鄉縣

屬范陽郡

前燕

幽州

薊縣

治燕國

薊縣西境

涿縣

治范陽郡

廣陽縣

屬燕國

良鄉縣

屬范陽郡

前秦

幽州

薊縣

治燕郡

薊縣西境

涿縣

治范陽郡

廣陽縣

屬燕郡

良鄉縣

屬范陽郡

後燕

魏

幽州

薊縣

治燕郡

薊縣西境

涿縣

治范陽郡

廣陽縣

屬燕郡

良鄉縣

屬燕郡

北齊

東北道行臺

薊縣

治燕郡

薊縣西境

涿縣

治范陽郡

廣陽縣

屬燕郡

良鄉縣

屬燕郡

周

幽州總管府

薊縣

治

薊郡薊縣西境

涿縣

郡

涿郡治西境

良鄉縣

郡

良鄉縣燕

隋

薊縣

治

涿郡薊縣西境

涿縣

郡

涿郡西境

良鄉縣

郡

良鄉縣涿

唐

河北道

薊縣

治

幽州廣平縣

治

薊

范陽縣

治

涿郡東境

良鄉縣

治

良鄉縣幽

廣寧縣

治

新縣置屬幽州

置屬

改名涿

歸義縣

治

歸義縣幽州聖縣初

縣改為固節

尋復故

名

遼西縣

治

幽州縣置屬

幽都縣

治

靜菴縣

治

歸義縣治縣尋復故

名

陽師縣

治

燕州治

縣

幽州縣置屬

元州治

來蘇縣

治

來蘇縣幽州陽師縣

縣

陽師縣

治

懷遠縣

治

幽州縣置屬

信州治

黃龍縣

治

黃龍縣幽州來遠縣

縣

威化縣

治

屬燕州

懷遠縣

幽州縣置屬

信州治

黃龍縣

治

黃龍縣幽州來遠縣

縣

威化縣

治

賓義縣

治

幽州縣置屬

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

賓州治

順州治

海濱縣
縣儒

沃州

新黎縣
縣儒

黎州治

青
山
州
元
折

州儒
置

涑
州
置
儒

五代
道河北

蓟縣
治幽州

幽都縣
屬幽州

范陽縣
治
涑州
良鄉縣
東境

良鄉縣
屬幽州

梁

廣平縣
屬幽州

玉河縣
劉仁

奉折
屬幽州

五代
道河北

蓟縣
治幽州

幽都縣
屬幽州

范陽縣
治涑州

良鄉縣
移良鄉縣西
移良鄉縣西

唐

州

治

治今城

國溝

廣平縣屬

州

玉河縣屬

川

遼

南京道

析津縣屬宛平縣屬范陽縣屬

良鄉縣屬良鄉縣

津府

縣遼初改平縣入幽永泰
名舊北縣都縣尋改軍治
尋改今名今名析津

析津府治府治

玉河縣屬

津府

宋

燕山府路

析津縣屬

宛平縣屬

范陽縣屬

良鄉縣屬

良鄉縣屬良鄉縣

府治

府治省王治

山府

金

中都路

大興縣
折津宛平縣
興府治
縣改名大府治

范陽縣
州治

良鄉縣
興府

奉先縣
初置
萬甯縣
改名屬

元

直隸中書省

大興縣
都大宛平縣
路總管府治

范陽縣
州治

良鄉縣
都路

房山縣
先奉
縣改名
屬涿州

明

京師府

大興縣
順天宛平縣
府治

涿州
屬順天府

良鄉縣
屬順天府

房山縣
屬順天府

國朝

京師府

大興縣
順天宛平縣
府治

涿州
屬順天府

良鄉縣
屬順天府

房山縣
直隸順天府

大興縣衝繁疲難郭下

新書地理志
廣記
蓟縣望
元地

歐陽志
大興赤周初
蓟

國春秋時爲燕國都

史記正義
蓟縣望
元地
日知錄
蓟在涿陽
西唐地理志
幽州范陽郡
治蓟開元十八年

析置漁陽屬蓟州及遼改蓟爲折津縣因此蓟之名秦置蓟縣屬
遂沒於此而存於彼今人乃以漁陽爲蓟失其本矣

上谷郡漢初爲燕國都又分置陰鄉縣元鳳中爲廣陽國治

漢地理志

創故燕國召公所治

新縣

幽州刺史理此尋省陰鄉來入莽曰伐

注地理志

創今順天府治

戎注水經後漢初屬燕國建武十二年改屬上谷郡治

上谷有郭縣段注曰郭舊古今字郭縣當作蒟縣郡國志廣陽郡

注世祖省廣陽郡并上谷永平八年復置

許云上谷有蒟縣攸光

附郭下大興縣治即古燕都

永元八年復置廣陽郡爲郡治

郡國志蒟本燕國刺史治

注漢官曰雒陽東北二千里三國魏爲燕國治晉因之後魏爲幽

州燕郡治齊因之省廣陽入縣

實字記廣陽故城在今縣東北三十七里漢爲縣高齊天保七年省

入蒟周亦爲幽州燕郡治隋爲涿郡治唐爲幽州治

舊書地理志燕州隋遼西郡寄治於營州武德元年

幽州刺史皆

武德六年燕州寄治城中

舊書地理志燕州隋遼西郡寄治於營州武德元年

改爲燕州總管府領遼西盧河懷遠三縣六年自營州南遷寄治

於幽州城內貞觀元年廢都督府仍領懷遠縣開元二十五年移

治所於幽州北桃李谷山天寶改爲歸德

又徙順州來寄治

方輿紀要唐貞觀初置順州於營州南五柳戍後寄治幽州天寶初曰順義郡乾

元初復曰順州領賓義縣一後廢按遼元二史謂順州即燕州

改名在今順義縣治然舊書志燕順二州同寄治幽州城內道里
均曰與幽州同不云順州即燕州也燕州於開元二十五年移治
州北桃谷山一統志引順義舊志以爲唐建中二年燕州廢後始
自幽州移順來治似爲得之蓋順州本治幽州城內因燕州改置
之幽都縣亦入幽州城開元二年復置沃州寄治南同城新書地
志移順州於故燕州耳開元二年復置沃州寄治南同城理志沃
州載初中折昌平州置萬歲通天二年沒於李盡忠二十五年燕
開元二年復置後僞治薊之南同城領縣一濱海
州徙桃谷山天寶元年析置廣甯廣平二縣三載均省入薊新書
志天寶元年析置至德後復置廣平建中二年移順州於故燕州
廣甯縣三載省
因廢燕州解析置幽都縣遼會同元年改爲南京幽都府治旋改
薊縣爲薊北縣按遼史無年月乾隆府廳州開泰元年又改薊北
曰析津縣爲燕京析津府治遼初改故繫於此開泰元年又改薊北
尋割宋爲燕山府治金貞元二年始改曰大興爲中都大興府治
元爲大都路治明洪武初爲北平府治永樂七年爲順天府治明
理志大興府東

本朝定鼎京師亦爲順天府治

宛平縣衝繁疲難郭下

新書地理志幽都望元地理志宛平赤漢陰鄉縣

輿地廣漢陰鄉縣

地今直隸順天府宛平縣西南

莽曰陰順後省入薊縣字記陰

舊地理志并失所在蓋薊縣西南界良鄉縣東界固安縣北界三縣

年實建德遣將高士興擊羅藝於幽州不克退軍龍唐天寶元年

火城藝擊大敗之未幾復敗建德於薊州火城是也唐天寶元年

析薊置廣平縣三載省至德後復置

天地理輿編今順建中二年因廢燕州解置幽都縣與薊並爲幽

州治舊書地理志幽都管郭下西界與薊分理建中二年取薊城

縣地今在薊州衙署置在府北一里雲字記幽都縣舊縣即薊

州驛置在府北一里其燕州本國因累末建中二年於薊城內廢燕

地稽爲太守理營州東二百里汝羅城後遭邊寇掠又寄理於

營州城內唐武德二年改遼西郡爲燕州仍置德管六年自營州

廢因爲朱滔所破滅尋州劉仁恭又析置玉河縣縣在縣西四十里

本朝縣地五代時劉仁恭置遼地理志玉河縣本泉山地劉仁恭於大安山創置宮觀師煉玉羽化之術於方士王若訥因割西四十仁恭分幽都置非薊也遼志今薊似仍其舊名耳省廣平人來按廣平新舊二志俱有遼志無之方輿紀要云後又省入薊至與地廣記仍有廣平宋人紀遼遼開泰元年改曰宛平遼地理志本諸新唐書志不甚足憑也

幽都開泰元年改今名欽定續通典與紀要唐德宗建中元年析薊縣置幽都縣遼志作晉幽都縣蓋誤又開泰元年清頻天文分野之書作統和二十二年未知孰是釋名燕宛也爲南京北方沙漠平廣北地在永鹿山南宛宛然以爲國都也爲南京析津府治尋割宋爲燕山府治省玉河入宛平按宋志無玉河金爲大興府治元爲中都路治明初爲北平府治後爲順天府治明

理志宛平倚北

本朝因之

涿州衝繁難新書地理志涿州上金地理志涿州中元地理志

涿州戰國燕之涿邑秦屬上谷郡漢皇帝六年置涿郡治涿縣新

注地理志涿今順天府涿州應劭曰涿水出上谷涿鹿縣以此氏
也攷上谷鹿今宣化府保安州地遠非是水經注桃水東逕承
縣故城下與涿水合水出涿縣故城西南奇溝東八里大坎下東
逕桃仁虛又東北與樂堆泉合水出堆東南流注于涿水涿水
又東北逕承縣故城西注于桃然則縣之得名領縣國二十九地
以此水也州今無此水水經注涿縣故城在涿州之東南
理志涿縣通殷邱故安南深澤范陽蠡吾容城易廣望鄭高陽州
鄉安平與樊成良鄧利鄧臨鄧益昌陽鄧西鄉饒陽中水武垣阿
陵武高武帝元封五年屬幽州今州為涿縣及西鄉國地新縣注
郭新昌武帝元封五年屬幽州今州為涿縣及西鄉國地地理志
西鄉在今涿州西北二十里漢王子侯表西鄉頃侯容廣陽頃
王子初元五年六月封水經聖水注使水出良鄉縣西甘泉原
東谷東逕西鄉縣故城北王莽之移風也世謂之都鄉王莽改郡
城按地理志涿郡有西鄉而無都鄉城蓋世傳之非也漢志涿道
曰垣翰西鄉曰移風後漢省西鄉入涿縣領縣國七侯國故安范
陽侯國良鄉北新魏文帝黃初七年改范陽郡取漢涿縣在范水
城方城故屬廣陽三國盛威志涿良鄉方城後為范陽國魏志
之陽以為名領縣八長鄉道故安范陽容城後為范陽國魏志
傳曹氣黃初五晉亦為范陽國晉書宗室傳司馬綏武又改范陽
年進封范陽王晉泰始元年封范陽王又改范陽
郡水經注晉泰始元年領縣同魏石趙燕前秦如故北魏亦曰范陽
郡年改為范陽郡

郡領縣七

魏地形志涿固安范陽長鄉方城容城迺

齊領縣三

涿通

周領縣二

省迺隋

開皇廢郡以縣屬幽州大業初屬涿郡

時涿郡改治薊

唐武德七年改涿

縣爲范陽縣隸幽州貞觀二十年徙立州寄治

舊書地理志立州隋開皇初置處契

丹李去開部落萬歲通天二年移於徐宋州安置神龍元年萬歲

復舊今隸幽州天寶領縣一靜菴州治所范陽縣之魯伯村萬歲

通天二年徙信州寄治新書地理志信州萬歲通天元年以乙神

龍元年徙慎州黎州寄都鄉城治

舊書地理志慎州武德初置解

二年移於隋青州安置神龍初復舊隸幽州天寶領縣一逢龍契

黎州初二年後南遷寄治良鄉縣之故都鄉城爲逢龍縣州所治也

萬歲通天元年遷於宋州管治神龍初遷改隸幽州都督天寶領

縣一新黎自宋州遷寄治景雲三年析立州置青山州新唐地理

於長鄉縣之故都鄉城天寶初徙廩州寄治舊書地理志廩州

范陽之水門村縣一青山天寶初徙廩州寄治舊書地理志廩州

縣界處大厯四年置涿州領縣三治范陽寰宇記大厯四年置於范陽

幽州都督府新書地理志領范陽歸義固安新昌新城晉天

福中入遼置永泰軍風析津府領縣四遼地理志范陽固安新城歸義宋宣和五

年賜郡名曰涿水升威行軍節度使領縣四宋地理志涿州唐置

四年金將郭藥師以州降賜郡名曰涿州升威行軍節度縣四范陽歸義固安新城金天會七年仍爲涿州

領縣五金地理志范陽固安元太宗八年爲涿州路中統四年復爲

涿州領縣二元地理志明洪武初省范陽入州領縣一明地理志

初以州治范陽縣省入東北屬北平府後屬順天府涿州志沿革表涿州領

距府四十里領縣一房山房山縣屬順天本朝因之雍正七年改房山直隸順天府涿州志沿革表涿州領

房山縣屬順天房山縣屬順天房山縣屬順天

夏鄉縣衝繁難元地理志春秋時燕中都地襄字記在燕爲中都

縣漢置廣陽縣按方輿紀要以漢陽郡縣列良鄉下遼地理志燕爲中

國新開土地志廣陽在今順天府良鄉縣東北括地志故城在

初耿弇追賊至小廣陽即此按漢之良鄉郡今之房山漢之廣

陽卽今之良鄉蓋北齊省廣陽入前唐長興後復移良鄉治此而

良鄉故址金大定置萬甯改奉先又後漢因之魏屬燕國三國志廣

改房山有以今良鄉爲漢縣者誤

陽漢晉因之按一統志嚴輔唐志乾隆府屬州縣圖志均云晉屬

舊縣晉因之范陽國按晉地理志范陽國有良鄉無廣陽廣陽仍

屬燕國周齊晉略置或表同魏地地形志亦云後魏屬燕郡北齊天

保七年省入薊縣唐爲良鄉縣地總章中設歸義州治此舊志歸

義州總章中置薊縣海外新羅隸幽州都督舊領

縣一歸義在良鄉縣之古廣陽城州所治也神龍初徙夷賓州

瑞州同時寄治舊志地理志夷賓州乾封中於營州界內置處

徐州神龍初遷隸幽州都督領縣一來蘇自徐州遷寄治於良鄉

縣之古廣陽城爲縣瑞州貞觀十年置於營州界移營州都督處

突厥烏突汗達於部落咸亨中改爲瑞州萬歲通天二年遷於宋

州安置神龍初遷隸幽州都督舊領縣一來遼舊縣在營州界陷

契丹移治於良鄉五代唐長興三年始移良鄉縣來治舊五代史

縣之故廣陽城五代唐長興三年始移良鄉縣來治趙德鈞傳

又於開溝築壘以戍兵守之因名良鄉縣以備鈔寇方輿紀要

契丹數鈔盧龍諸州境涿州運糧入幽州者輒伏兵於開溝掠取

之唐長興三年趙德鈞鎮盧龍城屬幽州晉天福中入於遼屬燕

開溝而戍之因移良鄉縣治焉

京析津府宋屬燕山府金屬大興府元屬大都路明初屬北平府

尋屬順天府

明地理志良鄉縣西南

本朝因之

房山縣繁難

新書地理志良鄉望元地理志

房山下漢置良鄉縣屬燕國

改屬涿郡

說詳順後爲侯國

地理志房山縣東按漢書作梁

鄉水經注

縣有梁山高梁水出焉梁良古字通用漢王子莽曰

侯表梁鄉侯

交趙共王子綬和二年六月丙寅封十六年免莽曰

廣陽後漢因之

魏屬范陽郡郡良鄉二漢屬後魏屬燕郡北齊天保七

年省入薊縣

武平六年復置平六年復置北齊天保七年省入薊縣武

年復置

隋屬涿郡唐屬幽州改書地理志良鄉漢屬涿郡至隋不

郡地後改屬燕

魏因之則漢之廣陽非涿聖祿元年改爲固節縣

郡矣隋涿郡亦非漢屬郡

地唐志之誤聖祿元年改爲固節縣

神龍元年復故名

按名勝志唐以不從安史之叛改名固節縣

史之板五

徙師州治縣境故東間城舊書地理志師州貞觀三年

十八年

徙師州治縣境故東間城

舊書地理志師州貞觀三年

郡各縣歲通天元年遷於青州安置神廟初改隸幽州都督舊領
 縣一陽師和貞觀置州於營州東北廢陽師鎮改號師州神龍中
 自青州遷寄治于長鄉縣之
 又徙威州治縣境石窟堡舊志威州武
 故東周城爲州治縣在焉
 德二年置遼州總管自燕支城徙寄治營州城內七年廢總管府
 貞觀元年改爲威州隸幽州大都督所領戶契丹內稽部落舊領
 縣一威化後契丹陷營州乃爲南遷焉寄治
 於長鄉縣之石窟堡爲威化縣幽州治也
 後唐徙治開溝一統志長
 鄉故城在房山縣東五代唐改置今長鄉
 故城遂廢爲長鄉宛平范陽三縣之地
 金大定二十九年置葛
 甯縣一統志金大定末以山 明昌二年更名奉先屬涿州至元二
 陵所在改置葛甯縣

十七年又改曰房山仍屬涿州明屬順天府涿州明地理志房
 山州北少西

本朝屬順天府涿州雍正六年改直隸順天府

南路廳屬沿革表

固安

永清

東安

霸

文安

大城

保定

周

韓國

方城
東境

泰

方城屬方城
上東境

谷郡

漢

幽州

方城縣益昌縣安次縣

屬度
屬承郡屬渤海

南境
安次縣

屬渤海郡

縣屬渤海郡

易縣東境屬承

臨鄉縣

屬承郡

陽鄉縣

屬承郡

後漢

幽州領

方城縣

省益昌縣入方

安次縣

安次縣西南境

文安縣

東平舒

易縣東境屬河

陽郡冀州領

屬承郡

城縣東屬廣陽

屬河間郡

縣屬河間郡

縣屬河間郡

縣屬河間郡

縣屬河間郡

晉

幽州領

方城縣

方城縣東境

安次縣

安次縣西南境

文安縣

東平舒

易縣東境屬

魏

燕國莫屬范
州領率陽郡

安次縣屬燕國
西境

屬章武縣
章武河間國
郡治

晉

幽州領
方城縣
屬范陽

安次縣
屬燕國
西境

文安縣
東平舒
屬章武河間國
郡治

武國河
長鄉縣

即漢陽
鄉縣置

屬范陽

屬章武縣
章武河間國
郡治

屬范陽

後趙

幽州領
方城縣

東境

安次縣

屬燕國

安次縣

文安縣
東平舒

屬章武河間國
郡治

燕國莫屬范
州領率陽郡

良鄉縣

屬范陽

屬燕國

屬章武縣
章武河間國
郡治

武國河
良鄉縣

屬范陽

屬燕國

屬燕國

屬章武縣
章武河間國
郡治

前燕

幽州領
方城縣

東境

安次縣

屬燕國

安次縣

文安縣
東平舒

屬章武河間國
郡治

燕國屬范 安次縣屬燕國

州領章陽郡 西境

武郡河 長鄉縣

間郡 通范陽

前蔡 山州領 方城縣 方城縣 安次縣 安次縣 西南境 文安縣 東平舒 易城縣

後燕 燕郡冀屬范陽 安次縣屬燕郡 西境

州領章郡 長鄉縣

武郡河 間郡 屬范陽

魏 山州領 方城縣 方城縣 安次縣 安次縣 西南境 文安縣 東平舒 易城縣

燕郡冀屬范陽 安次縣屬燕郡 西境

州領章郡 長鄉縣

武郡河 間郡 屬范陽

魏 山州領 方城縣 方城縣 安次縣 安次縣 西南境 文安縣 東平舒 易城縣

燕郡冀屬范陽 安次縣屬燕郡 西境

州領章郡 長鄉縣

武郡河 間郡 屬范陽

魏 山州領 方城縣 方城縣 安次縣 安次縣 西南境 文安縣 東平舒 易城縣

燕郡冀屬范陽 安次縣屬燕郡 西境

州領章郡 長鄉縣

武郡河 間郡 屬范陽

魏 山州領 方城縣 方城縣 安次縣 安次縣 西南境 文安縣 東平舒 易城縣

燕郡冀屬范陽 安次縣屬燕郡 西境

州領章郡 長鄉縣

武郡河 間郡 屬范陽

魏 山州領 方城縣 方城縣 安次縣 安次縣 西南境 文安縣 東平舒 易城縣

范陽郡 縣入涿安次縣屬 燕郡 縣東境西境 陽郡 縣屬高	周 幽州總 涿縣東涿縣東 安次縣 屬河間 章武郡 屬河間 治	隋 固安縣 東境 屬涿郡 通澤縣
屬河間 章武郡 東境 高陽郡	安次縣 西南境 文安縣 平舒縣 縣屬東	固安縣 南境 文安縣 平舒縣 縣屬東
屬河間 章武郡 東境 高陽郡	安次縣 西南境 文安縣 平舒縣 縣屬東	固安縣 南境 文安縣 平舒縣 縣屬東
屬河間 章武郡 東境 高陽郡	安次縣 西南境 文安縣 平舒縣 縣屬東	固安縣 南境 文安縣 平舒縣 縣屬東
屬河間 章武郡 東境 高陽郡	安次縣 西南境 文安縣 平舒縣 縣屬東	固安縣 南境 文安縣 平舒縣 縣屬東
屬河間 章武郡 東境 高陽郡	安次縣 西南境 文安縣 平舒縣 縣屬東	固安縣 南境 文安縣 平舒縣 縣屬東

唐

河北道

固安縣

永清縣 安次縣

永清縣南境

文安縣

平舒縣

歸義縣東境屬

析置新析安次屬幽州

昌縣尋縣置武

省屬涿隆縣改龍山縣

入利縣來

尋改今衛縣昌名屬幽州治

五代

河北道

固安縣

永清縣 安次縣

永清縣南境

文安縣

平舒縣

歸義縣東境屬

屬涿州屬幽州屬幽州

屬莫州屬瀛州涿州

五代

河北道

固安縣

永清縣 安次縣

永清縣南境

文安縣

大城縣

歸義縣東境屬

屬幽州屬幽州屬幽州

屬莫州平舒縣涿州

唐

改名屬瀛州

遼

南京道

固安縣

屬涿州

永清縣

屬折州

安次縣

屬折州

永清縣

南境

文安縣

屬莫州

周 永

霸州治

永清縣

霸州治

永清縣

南境

文安縣

大城縣

霸州屬

宋

河北路

固安縣

省永清

安次縣

文安縣

文安縣

大城縣

東境屬

燕山府

屬涿州

安縣北

屬燕

南境

霸州治

屬霸州

涿州屬

于其地
置平戎
軍改保
定軍營
又廢爲
縣

金

中都路

固安縣

永清縣

安次縣

益津縣

文安縣

大城縣

保定縣

屬涿州

屬大興

屬大興

霸州治

屬霸州

屬霸州

屬雄州

元

直隸中

固安州

永清縣

東安州

益津縣

文安縣

大城縣

保定縣

明

京師順天府

縣升屬大
大都路都路

縣升屬
大都路

屬霸州治屬霸州屬霸州

固安縣永清縣

東安縣霸州

文安縣

大城縣保定縣

屬霸州

州降屬順天府

州降屬天津府

屬霸州

屬霸州

屬霸州

國朝

京師順天府

固安縣永清縣東安縣霸州

文安縣

大城縣保定縣

屬霸州

府屬順天府

府屬順天府

府屬順天府

直隸順天府

直隸順天府

直隸順天府

固安縣衝繁難

新書地理志固安上

輿地廣記周韓侯國

志按

舊說皆以韓國在同州韓城縣

元地理志固安上

知錄辨之曰水經注引

王肅言方城有韓侯城今固安縣即漢之方城水經注又云潞水

經良鄉縣之北界歷梁山南高梁水出焉

是所謂奕奕梁山者矣

曹氏武王子初封於韓其時召襄公封於北瑤賁為司空王命燕

宋城之同州去韓二千里即命召公為司空瑤賁為司空王命燕

近甸而已豈有役二千里外之人而為築城者哉况其追其緒乃

東北之夷而縣父之驩國不到本似謂韓土在北邽之遠也乃考

王符潛夫論曰昔周宣王時有韓侯其國近燕故詩云傳彼韓城

燕師所完漢時去古未遠當燕為方城邑方城縣故城李牧伐燕

有傳授今以水經注為定

燕為方城邑

方城縣故城

李牧伐燕

燕師所完漢時去古未遠當

燕為方城邑

方城縣故城

李牧伐燕

有傳授今以水經注為定

燕為方城邑

方城縣故城

李牧伐燕

燕師所完漢時去古未遠當

燕為方城邑

方城縣故城

李牧伐燕

有傳授今以水經注為定

燕為方城邑

方城縣故城

李牧伐燕

四年移治章信城屬北義州貞觀元年

實字記武德四年又移理歸義縣界章信堡貞觀元

年又移

於今理省北義州還屬幽州又移今治

遼志作貞觀二年

如意元年析縣

西境置武隆縣大庾四年改屬涿州復析縣境置新昌

按在今保定府新城

縣東三

遷屬涿州隸析津府宋屬涿州金仍屬涿州

元地理志固安州唐爲固

安縣隸幽州宋隸涿州金隸涿州廿二史攷異按宋制以州領縣遼時固安隸涿州宣和收復之後固安仍隸涿州金特因宗之

舊耳但宋時諸州又有郡名故宋志於涿州下又有賜郡名曰涿水之友非吹州名爲郡也明初修史諸臣昧於地理妄疑升州爲

郡故有

元憲宗九年改屬霸州又改屬大興府中統四年升固安

州明洪武元年改州爲縣屬北平府永樂元年屬順天府

明地理志固安

府西南元固安州洪武元年十二月降爲縣

本朝因之

永清縣要

新舊地理志永清縣記永清縣

輿地廣下戰國秦爲方城東境漢

爲益昌縣地元帝永光三年建益昌國

新縣注地理志益昌今順天府永清縣舊字記故城

在固安縣東五十里漢王莽曰有秩

子侯表益昌頃侯嬰廣陽頃王子永光三年三月封

後漢省入安次晉以後爲安次方城二縣地隋開皇六年移固安

於故方城縣後復爲固安縣地大業五年置通澤縣隋末廢方輿紀要

通澤廢縣在縣西五里唐如意元年置武隆縣於今理屬幽州景雲五年改

曰會昌天寶元年又改曰永清寰宇記以邊境永清爲名晉天福中入於遼屬

幽都府於縣治建益津關周顯德六年取縣地置霸州於縣治仁

宗景祐二年省入文安移文安縣來治皇祐元年文安還舊治爲

文安縣北境金太宗時復置永清縣改屬析津府方輿紀要石晉沒於契丹周世

宗復取之宋初爲霸州治景祐二年并入文安金復置元屬大都路明初屬北平府後屬順

天府明地理志永清府南

本朝因之章學誠永清縣志永清沿革自唐以前最爲糾紛難考見於史志惟漢書置益昌縣後漢省之由三國六朝以

訖於隋始置通澤縣廢至唐武后如意中始立武隆縣景雲中改會昌縣元宗天寶元年乃立永清縣名以故舊志於唐以前東

漢而後思南北諸朝一概削而不載至漢以前因史無明文遂云
 周秦無考而五代以後又不數宋與遼金南北得失始末而并之
 知唐置永清與今縣大小異形宜其考沿革者竟如治絲而棼之
 也按縣道元水經注方城縣東八十里有益昌縣故城方城爲今
 固安縣地括地志方城縣在武清縣東南十七里縣城方城爲今
 理志如意元年分安次縣置武清縣是則後漢省縣以固安縣
 城東境安次西境爲今永清地蓋縣廢而後漢省縣以固安縣
 而得也至周秦之間雖無明文可考然方城故城方城爲今固安縣
 境內而益昌故地又在方城縣東自宜以永清爲古方城東境而
 方城之名見於國策趙使李牧拔武遂方城徐廣曰武遂屬河間
 方城之名見於國策趙使李牧拔武遂方城徐廣曰武遂屬河間
 定專名然漢縣置域較今爲廣後漢廢益昌縣則沿革自宜於此
 安次爲永清縣地周世宗顯德六年取益昌故地而舊志以益昌全縣
 竟以今永清縣當之非其質矣又酈道元爲元魏時人在安城境
 次爲安城其時縣故未廢而水經注稱益昌故城不日在安城境
 而曰不可解至永清縣東則固安亦有益昌舊地可知而舊志概未之及
 殊不日在安城其時縣故未廢而水經注稱益昌故城不日在安城境
 清兼有霸州之地亦不得以今之永清而遂當唐縣也隋置通澤
 縣不見于霸州之地亦不得以今之永清而遂當唐縣也隋置通澤
 久而旋廢故地志不錄而舊志記云隋末廢蓋大業七年所置置不
 亦失記事之實至石晉而後入于契丹周世宗置霸州治永清縣
 宋景祐中以永清省入文安金太宗復永清縣治全削宋金南北互
 有明文而舊志竟以宋爲遣兵戍守未建縣治全削宋金南北互

有之文則尤爲妄矣蓋北宋自仁宗景祐前以永清仍周之舊
中安尚隸燕山府徵欽而後乃入于金而藏輪通志則直云析
津府六州十一縣疎州遼天祚帝保大末宋宣和未嘗爲南朝所
宣和五年屬燕山路尋仍入金轉似周宋宣和未嘗爲南朝所
有者則不知其何所據也按遼保大末宋宣和未嘗爲南朝所
而地入于金前此未嘗非宋有也金天輔七年爲宋宣和三年宋
史徽宗本紀宣和四年十月改燕京爲燕山府五年正月命王安
中爲燕山府路直撫使知燕山府四月金遣楊瑒以燕京涿易等
州來歸此皆當遼保大之末安得倒置年月謂由遼入金由金入
宋然後仍入於金乎蓋通志惟據遼史地理志見有析津府六州
十一縣之全文以謂志既全徽疑遼始終有之故附會保大末年
入金之說耳解此不知史志之文皆據遼一朝最盛之形勢以括
其餘遼天顯中石晉以河北十六州歸遼于是置府建都之地安
得不一而中爲宋收縣志沿革之難考者三西漢置縣而定縣界
未可以一而中爲宋收縣志沿革之難考者三西漢置縣而定縣界
其難一也東涉隋數百年未有專名不能不兼考鄰境以定縣界
能盡有其地凡古昔之涉方城安次諸境者又無東西界畫與今
存遺跡明知不盡出于今日之承清而不能不與兼收並蓄其難
二也自五代訖宋遼金戰禍紛紜清有無互見難以折衷強定南北
其難三也今并以史志爲準而參攷于記載雖說補舊志之荒陋
梗概如古侯覽者詳焉

東安縣要

新書地理志安次上

輿地廣記

漢安次縣

新書地理志安次

在今順天府

初屬燕國後屬勃海郡

實字記安次縣本漢舊縣東

東安縣西

旦有罪削以屬新海郡

方輿紀要光武

後漢屬廣陽郡省益昌

初追破尤來大槍諸賊於安次

即在此地

後漢屬廣陽郡省益昌

來入屬漁陽郡今本作廣陽郡按安次出渤海改屬廣陽魏地形

志可證未屬漁陽魏屬燕國晉爲侯國屬燕魏改名安城屬燕郡

也作漁陽者字誤魏屬燕國晉爲侯國屬燕魏改名安城屬燕郡

魏地形志前漢屬渤海郡後

隋復曰安次屬涿郡唐屬幽州武德

四年移於城東南五十里石梁城

方輿紀要石梁城在舊州城東

貞觀八年又自石梁城移理魏常道城按地形志安次縣有

之轉所與紀要常道城在舊州頭西五里魏常道元曰故鄉亭也

三國魏燕王宇之子璜封常道鄉公甘露五年司馬昭迎立之又

晉司空劉琨嘗守此以距石勒北魏武后如意元年析縣東境與

主宏封字文英爲常道鄉公皆此地

固安西境置武隆縣按即今神龍初徙昌州來寄治

舊書地理志

年置領吳州松漠節落雜營州都督府萬歲通天二年遷於青州

安置神龍初遷隸幽州領縣一龍山新書地理志昌不貞觀二

年以松漠府節落置僑治營州之靜菴成
七年徙於三合鎮後治安次之故常道城
遼城移就耿橋市南按縣志舊治在渾河水次居民曠遠屬析津

府宋屬燕山府金屬大興府元太宗七年收屬霸州中統四年升

爲東安州隸大都路明洪武元年收爲東安縣屬北平府三年又

移治常伯鄉張李店卽今縣治後屬順天府明地理志東安府東南元東安州治在西

洪武三年徙今治一統志明洪武初降州爲縣三年避渾河水

患久移治常伯鄉張李店卽今治也縣志漢安次故城在今縣西

北四十里其址尙存俗呼古縣又東安舊州在古縣西五里俗名爲舊州頭今皆有集

本朝因之

霸州衝繁輿地勝記霸州中元豐九域志霸州中漢益昌安次

二縣地後漢省益昌爲安次縣地唐爲永清縣地晉天福中入於

遼建益津關於永清縣通鑑注引宋白曰益津關本幽州會昌縣唐天寶中改永清縣周世宗顯

德六年取益津關置霸州通鑑注引金人璽域志仍以永清爲

州治以鄴州之文安瀛州之大城來屬宋亦曰霸州治文安縣景祐二年廢永清縣徙文安於故永清縣爲州治皇祐元年文安復

還舊縣仍爲州治太平興國六年以淤口砦建破虜軍景德二年

改爲信安軍政和三年賜郡名永清屬河北東路貞元二年改屬

中都路大定七年降信安軍爲縣來屬元地理志霸州宋升永清郡金置信安軍廿二史攷

與宋承後周之舊亦爲霸州政和三年賜郡名曰永清蓋宋時說

州皆有郡名以爲封爵之號其郡名皆依唐舊若五代及遼增置

之州向無郡名故政和依例賜之非升州爲郡且郡名之有無無

關沿革本不必書若有書有不書有難免聖王之議矣又攷宋時

以霸州建信安軍金大定中降軍爲縣霸州然則信安軍非金所置此志之誤也大定二十九年置益津

縣徙州治益津方輿紀要益津縣今州治金大定二十九年始置徙州治於此元光元年升信

安爲鎮安府金地理志信安國初因宋爲信安軍大定七年降爲信安縣隸霸州元光元年四月升爲鎮安府所以重

高陽公張甫也元初廢仍置霸州屬燕京路中統四年省益津入州至元二年復置省保定來入四年復洪武初省益津入州屬北平府後

屬順天府領文安大城保定三縣

明地理志霸州北距府二百里

本朝因之雍正六年改文安大城保定直隸順天府

文安縣繁難

新書地理志文安上 宋地理志文安上 元地理志文安上 元豐九年

上本漢文安縣地

新縣注地理志在今順天府文安縣東北屬渤海郡後漢屬河間國按襄宇記云和帝二年置瀛州縣屬焉致魏

武帝分河間渤海置章武國

文安屬焉晉為縣屬章武國石趙改

國為郡復屬章武郡

魏地形志晉屬章武郡後改按勒以樊垣為章武內史永和六年冉閔章武太守賈堅是

改國為郡之證

魏太和十一年置瀛州以章武郡隸之北齊省西章武來

入隋大業七年於州口當三河會流之處割文安平舒二邑戶於

河口置豐利縣屬河間郡唐貞觀元年以二縣相逼廢豐利徙文

安於豐利即今城也屬瀛州景雲二年改屬鄭州周顯德六年改

屬霸州宋景祐二年移入州郭省永清來入皇祐復故仍為州治

金大定二十九年州徙益津縣仍爲州屬元屬大都路霸州明屬

順天府霸州

本朝因之雍正六年改直隸順天府

大城縣繁難

新舊地理志平舒上宋地理志大城上元地理志大城

下漢置東平舒縣屬渤海郡

新縣注地理志今順天府大城縣

一秋志東平舒故城今大城縣治漢置水經注漳水枝瀆逕東

平舒縣故城南代郡有平舒城故加東魏土地記曰章武郡治世

以爲軍武故城非也括地志平舒縣在瀛州東北一百三十五里

衛漳水在其界實字記大城縣西北去霸州九十五里本漢東平

舒縣周顯德六年割韓霸州今改名大城九域志縣在益津關東

南一百五里五代時所置也縣志故城址基在今縣北土壘迤折

又名越州城今城仍後漢屬河間國魏於縣置章武郡三國置城

魏武分河間勃海置領縣四杜畿傳子恕嘉平元年免官徙章武

郡晉地理志魏武置郡十二其一章武及章武國下云泰始元年

置蓋晉爲章武國治王又改封潁陽王司馬愷武帝咸寧三年

改封潁陽王後封混章武王號石趙因之前燕改章武郡按晉

地形志章武晉置章武國後收

王五年勒以樊坦爲章武內史又傳以慕魏曰平舒爲章武郡治

容輝爲章武太守是改國爲郡或是時也

正光中分章武置西章武縣仍屬章武郡

齊省西章武入縣

郡北齊省舊志章武城在今縣南四十七里以在章武之西故加

西也按隋地理志平舒舊置章武郡開皇初廢

廢郡爲平舒縣縣自漢爲東平舒魏爲平舒齊隋開皇十六年

於長蘆縣置景州平舒隸焉大業初州廢縣屬河間郡唐武德四

年復置景州仍割平舒屬之貞觀元年州廢遷屬瀛州

郡廢屬河間郡乾隆府屬州縣圖志同第以隋志屬河間郡遂若

由章武即改屬河間者攷之開皇初改郡爲州大業初改州爲郡

改郡之時河間尚爲瀛州并無河間之名寰宇記云北齊改郡爲

平舒縣隋開皇十六年於長蘆縣置景州平舒縣屬焉大業末劉

黑閭兵亂河間侵吞郡縣唐武德四年賊平縣屬景州貞觀元後

唐改曰大城通志周顯德六年收復改曰大城按方輿紀要云五

之大城來屬是已名大晉天福中入遼周顯德六年收復改屬霸

城非周改也通志誤

州宋金元明用之

本朝屬順天府霸州雍正六年改直隸順天府

保定縣簡

輿地廣記保定軍同下州

元豐九域志保定軍同下州地理志保定下

自漢至魏爲易縣東境地北齊省入鄆爲鄆東境地唐武德元年

置歸義縣又爲歸義東境地

通鑑志九域志雄州治歸義容城二縣蓋皆置於鄆下

宋初改

歸信縣又爲歸信東境地太平興國六年置平戎軍

廣宇記平戎軍本莫州新

鎮之地皇朝太平興國六年

景德元年改爲保定軍隸莫州景祐

元年析霸州之文安大城二縣五百戶隸軍宣和七年廢保定軍

爲保定縣隸莫州知縣事仍兼軍使

三朝北盟集編河北河東陝西路宣撫使董貫奏

制子河北舊沿邊州軍多係景德年號升城寨爲之以張形勢

縣知縣事兼安肅軍使隸保定永宣軍依舊爲博野縣知縣事兼

州舊來沿邊建置諸寨除信安軍所管以尋復故日下舊聞改保

東不可減省外其餘亦合廢罷奉御韓佖

宗宣和七年事也是時其地已屬金之雄州據宋金復爲縣屬雄
史地理志所云尋依舊者蓋具文耳實非宋有也
州元至元二年省入益津四年復置屬霸州明洪武七年省入霸
州十三年復置屬霸州隸順天府明地理志保定州南少西

本朝因之雍正六年改直隸順天府

東路廳屬沿革表

周	
	通
	三河
	寶坻
燕國周初 都此後 徙薊 無終子 國春秋 時 無終縣	薊
	武清
	香河
	甯河

漢

幽州

路縣屬

路縣地

泉州縣北境

無終縣雍奴縣

雍奴縣泉州縣東北境北境

陽郡莽曰通路亭

屬右北屬漁陽平郡

泉州縣

屬漁陽郡

安樂縣

屬漁陽郡

後漢

幽州

潞縣屬潞縣地

泉州縣北境

無終縣雍奴縣

雍奴縣泉州縣東北境北境

郡治

屬右北屬漁陽平郡

安樂縣

屬漁陽郡

泉州縣

屬漁陽郡

右北平郡治秦楚之際遼東王都此

晉

幽州

潞縣

屬潞縣地

北境

無終縣

屬無終縣
東北境

國

安樂縣

屬燕國

泉州縣

屬燕國

晉

幽州

潞縣

屬潞縣地

北境

無終縣

屬北平屬燕國

安樂縣

屬燕國

泉州縣

屬燕國

後趙

幽州

潞縣

屬潞縣地

北境

無終縣

屬無終縣
東北境

陽郡

安樂縣

屬漁陽郡

泉州縣

屬漁陽郡

後燕

前秦

前燕

卷之二十一

四

魏

幽州

潞縣屬

潞縣地

雍奴縣

無終縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

陽郡省
安樂縣
來入

屬漁陽

治省泉
州縣來

齊

東北道
行臺

潞縣屬

潞縣地

雍奴縣

無終縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

陽郡

屬漁陽

屬漁陽

周

幽州總
管府

潞縣屬

潞縣地

雍奴縣

無終縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

陽郡

屬漁陽

屬漁陽

隋

潞縣屬

潞縣地

雍奴縣

漁陽縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

雍奴縣

無終縣
改名漁
陽郡治

唐

河北道

潞縣屬

臨胙縣

武清縣

漁陽縣

武清縣

武清縣

武清縣

武清縣

折潞縣
置屬元

蕪州治

雍奴縣
改名屬

昌黎縣

州尋與
州俱省

儒縣崇
州治入泗

寶從縣

三河縣

儒縣縣
州置屬

析滄縣

河北道

滄縣

省三河

武清縣
東北境

漁陽縣

武清縣

武清縣

武清縣

梁

河北道

滄縣

三河縣

武清縣

漁陽縣

武清縣

武清縣

武清縣

唐

遼

南京道

滄縣

三河縣

香河縣

漁陽縣

武清縣

香河縣

香河縣

津府

屬三河縣

香河縣

漁陽縣

武清縣

香河縣

香河縣

滄縣

屬三河縣

香河縣

漁陽縣

武清縣

香河縣

香河縣

幽州

析陽縣
武清縣
置屬析

地益之
府屬析津

宋
燕山府

津府
潞縣屬

三河縣
屬薊州

香河縣
東境

漁陽縣
賜名平屬燕

武清縣
屬薊州

香河縣
賜名清屬

香河縣
東境

灤陰縣

州治

燕山府

屬燕山府

金
中都路

潞縣通
治

三河縣
屬通州

寶坻縣
析香河屬

漁陽縣
屬薊州

武清縣
屬大興

香河縣
屬大興

寶坻縣
東北境

縣置屬

府

府

大興府

承安三

年升置

廢州

元
直隸中
書省

潞縣通

三河縣

寶坻縣

漁陽縣

武清縣

香河縣

寶坻縣
東南境

治
屬通州屬大興
薊州治屬薊州屬薊州

薊州
薊州

縣升
縣升

明
京師順天府

通州
通州

三河縣寶坻縣薊州
三河縣寶坻縣薊州

武清縣香河縣
武清縣香河縣

縣入
縣入

屬通州屬通州
屬通州屬通州

屬通州屬通州
屬通州屬通州

薊縣
薊縣

屬通州
屬通州

京師順天府

通州
通州

三河縣寶坻縣薊州
三河縣寶坻縣薊州

武清縣香河縣
武清縣香河縣

縣入
縣入

屬通州屬通州
屬通州屬通州

屬通州屬通州
屬通州屬通州

通州衝繁疲難

新書地理志
新書地理志

元地理志
元地理志

注地理志路在今順天府通州東安樂縣新縣注地理志安樂在
 南後漢書注今幽州縣以水名縣今通州通地理志安樂在
 云故城在屬漁陽郡莽曰通路亭後漢曰潞地理志舊開按漢書
 路縣北屬漁陽郡莽曰通路亭後漢曰潞地理志舊開按漢書
 路縣作路與上黨郡之潞故潞子國異文後漢書郡為漁陽郡治
 國志潞陽郡下始列潞縣為潞河之文承用始也潞陽郡治
 劉錫信潞縣故城考通州潞河東八里許有古城周圍四里其遺
 址約高五六尺東西北三面俱存惟南面近官道已成陸地西北
 闕遺堞高六尺東西北三面俱存惟南面近官道已成陸地西北
 之州志曰前代駐兵之所或云古潞縣疑不能明也歲在壬午土
 人於古城北得一石為唐景城主簿彭悅權殯誌銘余於癸巳歲
 始購得之誌云建中二年季弟長源迎神葬於古潞陽城北采貴
 里之原則又稱此城為古潞陽城子初益疑之按水經注云龜印
 水又南逕潞縣故城城西王莽之通潞亭也漢光武遣吳漢耿弇等
 破銅馬五幡於潞東謂是縣也屈而東南流逕潞城南世祖拜彭
 寵為漁陽太守治此寵叛光武遣遊擊將軍鄧隆伐之軍於是水
 之南鮑邱水經注今潞河潞河通今城州東即屈而東南流古在
 路河東與水經注所謂南潞河故城城西相合余尋訪其地登古
 城廢堞南望河去城約三里時當秋日濟艘未盡南下帆檣林立
 蓋何至此折而東流正城為漢時潞縣城南與水經注所謂南
 逕潞城南正合則古城為漢時潞縣城南與水經注所謂南
 此折而東流正城為漢時潞縣城南與水經注所謂南
 續漢書五行志云建武中漁陽太守彭寵被徵書至明日潞縣火
 災起城中飛出城外燔千餘家殺人時寵與幽州牧朱浮有隙疑

浮見漫漶迷反政而率無此徵之亦可見潞縣爲太守治
所屬初被徵而潞縣與爲政甚之兆若路仍如西漢時爲潞陽郡
夫縣通在潞百里外而偶而遇災何以遽見爲太守感應之兆志
縣無明文可以爲據但潞漢書縣國志潞陽郡所領縣仍以潞
陽縣爲首縣司馬遷志潞陽三國志所載到虞從事鮮于補闕
郡仍歸治故地無求可知然潞三國志所載到虞從事鮮于補闕
榮等欲報公孫瓚所置潞陽太守鄒丹戰于潞北則又似終
東漢之世潞陽縣與潞縣所置潞陽太守鄒丹戰于潞北則又似終
敗此唐刻竟無從確考此城爲潞縣故城卽東漢潞陽郡治今由
此石而證之以水經注五行志使二千年之古蹟燦然可攷并可
補後漢書及歷代地理諸家之闕金石之神益賈多也又州志分
別潞縣亭別爲一條而注云道址與考不知潞縣亭卽潞縣故城
也水經注明言之矣蓋潞縣亭非亭傳之亭亦非漢志十里一亭及
後漢封爵亭侯之亭按漢書王莽改縣以亭名者三百六十以應
符命文則莽之所謂亭卽縣也特異其名亦應符命耳後人
不察似莽會建亭館于縣而著之爲古蹟之一非其實矣 建安

中魏武省潞陽改屬燕國晉因之後置潞陽郡縣還隸焉魏地形志潞陽

潞陽二漢屬晉屬燕國後屬按潞陽之置史無明文然晉魏移潞
陽起趙國二十四郡有潞陽核之魏志知必晉時復置矣

陽治雍奴太平興君七年省平谷來入十年省安樂來入方輿紀

城在州西北亦漢潞陽郡屬縣更始初吳漢爲安樂令卽此後漢
仍屬潞陽郡曹魏景元四年滅蜀封後主禪爲安樂公晉亦曰安

樂縣圖燕國北魏太平興君七年廢入潞縣
縣城遺址雖不存然方輿紀要既云北魏廢入潞縣則在今舊聞攷安樂
境內可知也太子賢後漢書注云安樂故城在今縣西北則宋人言
之唐又馬端臨文獻通考亦載安樂故城今在縣西北則宋人言
矣宋樊尊原書周載此安樂故城一條牽連書之致誤耳考安樂本
昌平山水記後魏安樂郡故城一條牽連書之致誤耳考安樂本
非因縣為郡郡自在今順義縣境縣自在今通州境不得以名之
相同而混郡縣為一也按安樂齊屬漁陽郡劉錫信海郡併清
疑入潞方輿紀要蓋據地形志齊屬漁陽郡劉錫信海郡併清
載通州北魏時分置郡按魏書地形志無潞郡而漁陽縣界
郡方輿紀要云北齊時分置郡按魏書地形志無潞郡而漁陽縣
置郡仍名漁陽不名潞郡也顧氏似沿清頻天文周又為漁陽郡
分野之書又知魏志無潞郡也顧氏似沿清頻天文周又為漁陽郡
分列錫信漁陽郡三治無潞郡也顧氏似沿清頻天文周又為漁陽郡
治其東漢及宇文周并方輿紀要諸君亦未之載也東漢治潞見
水經注前段已詳言之矣隋書地理志潞郡治潞縣下云舊置潞陽
郡開皇初郡廢隋承周後則周之潞郡治潞縣下待言矣考周滅
北齊僅四年郡廢隋承周後則周之潞郡治潞縣下待言矣考周滅
豈而曰舊置或統承齊氏而言之郡縣未必大有更置隋志不曰周
二年自無終徙漁陽郡於此置元州蓋隋治潞縣下云武德
治潞縣也唐人州郡互稱稍蟬蛻如幽州范陽郡其元州
則漁陽郡也追貞觀二年罷元州隋開皇初廢郡以縣屬幽州大
開元十八年分置瀋州號漁陽郡

業初隸涿郡劉錫信潞縣治考潞縣舊治二清昨在今潞東河入

唐石刻可以為據唐中開二三百里未審治何所按水經注引

氏上地記云潞縣城在潞水之東也以此計之元魏潞縣治所

當在潞水之東也以此計之元魏潞縣治所

可考也里或近之不知何時徙治潞水之西疑當在潞水之東

中之地或近之不知何時徙治潞水之西疑當在潞水之東

之非今州城北十三里然燈佛塔寄崖高峻頗為巨觀建自周

文氏當曰建塔必在郡邑城市之地意潞縣必已徙治於此矣

潞縣後開河內與潞縣治東境遼遠此唐初所以析置潞縣

後而後開河內與潞縣治東境遼遠此唐初所以析置潞縣

潞縣後開河內與潞縣治東境遼遠此唐初所以析置潞縣

元四年析置三河縣於故臨洺縣後唐趙德鈞移城於潞水東即

今治也

一統志水經注引魏氏土地記謂水在潞縣城西三十里

西則不異也今潞水在州東自遼金至明以前雖嘗遷改而水在城

後五代時趙德鈞城潞縣其去州道里較遠字記少十里遷治蓋

在是道屬析津府金天德三年升通州按金天德三年改彰陽之

通州屬大都路元地理志金改通州取潞屬大興府領潞三河

二縣元因之屬大都路明洪武初省潞縣入州十年寶坻由直隸

北平府來屬十二年武清由涿州來屬十四年降涿州為縣來屬

一統志涿縣故城在通州南四十五里本遼所置涿陰縣也遼地

理志析津府統涿陰縣本漢泉州之涿村鎮遼每季春弋獵於延

芳淀居民成邑就城故涿陰鎮後改為縣在京東南九十里金地

理志大興府涿陰縣遼太平中以涿陰村置元地理志元初涿陰

縣為大興府屬邑至元十三年升涿州屬大都路舊志縣舊治在

城南元升為州遷於河西務至正間復移舊治明洪武五年遷

州為涿縣屬通州仍舊治正德初始築土城周二里門四屬北平

內後屬順天府

本朝順治十六年省涿縣入州雍正三年改武清屬天津州四年

還屬六年改三河寶坻武清三縣直隸順天府

通州志沿革通州國朝屬順天府

隸通州兵備道順治七年尋通密兵備道十四年隸通密兵備道

俱仍領四縣順治十六年省鄆縣入州仍領三武寶三縣康熙入

年屬通永道雍正六年屬東路廳刑名由東路廳核轉錢穀由通

永道核轉所領三縣改隸廳屬乾隆十九年錢穀亦歸東路廳核

轉其三縣乾隆二十五年詳准改用平行

舊制乾隆二十五年詳准改用平行

三河縣衝繁難記新書地理志三河中與地廣自漢至隋皆潞縣

地唐武德四年因石趙臨洺城置臨洺縣方輿紀要臨洺城在縣

而名亦曰臨渠城晉永和六年燕慕容霸伐趙出徒河收樂安北

平兵糧與其主馬會於臨洺即此城也遠地理志三河本漢臨

洺縣地廿二史攷異洺當作洺字之譌也兩漢志俱無臨洺縣唐

武德二年析潞縣置臨洺貞觀元年省開元四年復析潞縣置三

河縣蓋即臨洺故城臨洺唐縣非漢屬元州貞觀元年省入潞開

元四年復分潞置三河縣方輿紀要以地近七渡屬幽州十八年

改屬薊州五代初廢後唐長興三年復置屬幽州通鑑趙德鈞爲

東北百餘里城三河縣以通薊州運路邊人賴之節度使於幽州

在今縣東三里洺河南被水衝廢今三河城即趙德鈞所改置城

方十里濠濶三丈深半之
遼仍屬薊州宋亦屬薊州金改屬通州明亦屬通州
明地理志三
河州東北

本朝因之雍正六年改直隸順天府

寶坻縣衝疲難
金地理志寶坻下漢泉州地魏省泉州入雍奴爲雍奴地

復改武清爲武清地遼析武清置香河爲香河地後唐於此置鹽

倉金初爲新倉鎮大定十二年置寶坻縣屬大興府
金劉昫新

署幽州秦爲上谷郡歷漢魏至隋唐或爲燕國或爲廣陽國或爲

涿郡或爲范陽郡廢置更易不常唐末劉仁恭率燕其子守光僭

稱燕王置薊臺軍於海口鎮以備滄州後唐莊宗命大將周德威

破燕軍於平岡復收薊臺軍同光中以趙德鈞鎮其地遂因薊臺

南地置鹽場又舟行運鹽東去京國一百八十里相其地高阜平

潤因置鹽院謂之新倉以貯鹽復開渠通鹽貿易于瀛莫間上下
資其利清泰三年晉祖以遼主有援立之勞遂以山前後十六州
遣還改爲燕京府置新倉鎮其後居民漸聚成井肆遂於武清北
都孫村度地之宜分武清薊縣三河之民置香河縣仍以新倉鎮
隸之焉國朝天德間詔建都于燕京于時畿內重地新倉鎮頗爲
稱首以樞院自趙德鈞創始以來歷選室及國朝二百年每歲所
出利源不竭以補國用故也主上中興撥亂反正思補正隆殘弊

命有司收權鹽院置使司陞爲五品談副使之官饒從奉硃視諸
利部以重其事於特居人市易井肆連絡加之河渠運漕通于海
嶺師舟子鼓棹飛帆慰還無難千里之遠旬日而一載幸卯冬
樓魚蟹不可勝食而材木亦不可勝用也
至郊天後鑾輿東巡幸于是邦歷覽之餘顧謂侍臣此新倉鎮人
煙繁庶可改爲縣明年有司承命析香河縣東偏鄉間萬五千家
爲縣謂鹽乃國之寶取如坻如京之類義命之日貳坻別爲上縣
著爲版籍是歲春除令丞簿以典其事粵有縣令振威將軍王祿
來引是邑縣丞忠武校尉李顯主簿儒林郎李拱昌縣昭信校尉
縣中參豫速判以備其職時坊郭居民十有餘家自餘村闕有
爲四隣東日海濱西日望都南日廣州北日渠陽縣治草創未有
公廨縣僚乃相地之宜于渠水之南大覺招提之西卜爲縣廨招
提之東縣丞主簿公署次之又于縣北郭郭之外卜爲縣廨方營
建間吏民鼓舞莫不子來不一二年皆以卽叙于是磐石以紀其
寔承安三年升置盈州爲大興府支郡以香河武清隸焉泰和四

年廢州爲縣復隸大興府

四年類天文分野之書泰和四年州罷仍爲寶坻縣

元屬大都路

明洪武十年屬通州

明地理志寶坻州東南元直隸大都路洪武十年二月來屬

本朝因之雍正六年改直隸順天府九年析縣東境置甯河縣

薊州衛繁

新書地理志薊州漁陽郡下

金地理志薊州中元地理

志下周燕國春秋時無終子圖詳說順秦置無終縣爲右北平郡

治水經鮑邱水注藍水逕無終縣故城東秦滅燕置右北平郡秦

楚之際遼東王都之漢異姓諸侯王表漢元年項籍漢屬右北平

郡地理記無終西漢縣右北平郡郡治按薊州漢無終縣屬右北平

郡大漢一統志無終城今薊州治按薊州漢無終縣屬右北平

不知自漢至元魏魏志爲漢縣屬漁陽郡以無終爲今之玉田

在漢縣境內而漢無終治卽今薊州當屬右北平非屬漁陽今從

志一統志局北平郡古北平魏去右字晉因之北魏太平真君七年

省北平爲漁陽郡周省徐無來入隋開皇六年徙元州於此并立

總管府大業初府廢仍置漁陽郡後又改縣曰漁陽一統志按舊唐志無終

而有漁陽縣云秦右北平郡治隋爲漁陽當是大業初移漁陽郡

名於故無終遂改縣亦曰漁陽隋志未及改耳舊志皆以今玉田

縣爲古無終今改玉田乃唐唐武德元年郡廢屬幽州二年改屬

元州又析置無終縣按今遵化州貞觀元年還屬幽州省無終來

入乾封二年復置

舊書地理志萬歲通天二年改爲玉田縣

神龍元年又屬營州開元

四年還屬幽州十八年於縣置薊州復分三河玉田二縣隸焉

舊

記開元十八年析幽州之漁陽三河玉田三縣置薊州取古薊門以名

天寶元年改爲漁陽郡乾元

元年復爲薊州遯因之爲尙武軍刺史州屬南京道領縣三

遯志三河宣和四年賜名廣川郡改國練州漁陽賜名平盧燕山府路

七年於玉田縣建經州金亦曰薊州

按通志云金置漁陽縣爲薊州治改漁陽置白清末唐於

縣建薊州至明初省入州中間並無省置廢景州以遵化來屬廢

金薊州置漁陽亦因遯宋之舊耳

通志誤經州以玉田來屬屬中都

元地理志薊州宋爲廣川郡金爲中都耳廣川郡天德三年改三河隸通州大定二十七年以永濟務置

名不必書永濟縣大王鎮置平峪縣大安初改永濟曰豐潤避東海郡侯諱

也

金地理志縣五漁陽也豐潤玉田遵化平谷

元屬大都路至元二年省平谷入漁陽省

豐潤入玉田四年復置豐潤縣三年復置平谷縣

元地理志領五縣漁陽豐潤玉

田遵化 明洪武初省漁陽入州十二年平谷入三河十三年復置
平谷 明地理志薊州西距府二百
平谷縣仍來屬隸北平府後屬順天里領縣四玉田豐潤遵化平
谷

本朝因之領縣四如故康熙十五年升遵化爲州直隸順天府改
豐潤屬遵化州雍正四年改玉田屬永平府乾隆八年改平谷直

隸順天府

武清縣衝繁難

新書地理志武清上元地理志武清下

漢雍奴泉州二縣

屬漁陽郡

新縣注地理志雍奴今順天府武清縣東南四十里

莽改泉州曰泉謂後

漢初以雍奴爲侯國

水經注雍奴數澤之名四面有水曰雍奴不流

侯魏遣張郃築進圍雍奴

日奴漢光武二年封潁川太守寇恂爲雍奴侯威侯寇恂建武二年封十二年薨侯損嗣三十年徙封扶柳後

復爲縣與泉州仍屬漁陽魏改屬燕國晉初屬燕國後屬漁陽郡

魏地理志漁陽郡雍奴二 魏太平眞君七年省泉州入雍奴爲漁陽
漢所屬晉屬燕國後屬

郡治齊因之周移漁陽於潞縣屬焉隋改屬涿郡唐屬幽州天寶

元年改名武清仍屬幽州

即覽引國經武清縣本漢之雍奴縣也新齊地理志武清不雍奴天寶元年

更遷屬析津府析置香河縣太平中析置寧陰縣宋屬燕山府金

屬大興府承安三年改屬盈州泰和四年仍屬大興府元至元十

三年屬滹州明洪武初因水患遷縣於西八里元衛帥府鎮撫衙

日下舊聞攷舊城在邱家莊之南距縣東十二里今其地名舊縣

有城隍廟蓋今之縣城自明洪武初始遷明以前縣治即邱家莊

南之故

基也

十三年改屬北平府通州

明地理志武清州南屬順天府通州

國朝因之雍正三年正月改屬天津州四年八月仍歸順天府通

州六年改直隸順天府八年割縣東西一百四十餘村歸天津縣

香河縣簡

元地理志香河下

漢雍奴縣地唐改雍奴爲武清復爲武清縣

地遼分置香河縣

遼地理志香河縣東武清孫村遷於新倉置櫛

河爲三河之誤今縣乃武清分置西

北稍分路境東北又稍分三河境耳以縣東香河爲名

于孫村置縣縣東南濱水多栽麥屬析津府宋宣和五年賜名清
荷夏秋之間其香馥郁因名香河屬大興府大定十二年割新倉置寶坻
縣承安十年升寶坻爲盈州以縣屬焉尋復故元至元十三年分
屬滹州明洪武十年省入滹州按一統志通志乾隆圖志均作省入滹縣故滹州洪武十四年二月
降爲縣而十三年已復置香河縣矣當作州縣字誤十三年復置屬北平府復屬順天府明地
理志香河府東南元屬滹州洪武十
年二月省入州十三年二月復置

本朝因之

甯河縣疲難自漢至遼與寶坻同屬金置寶坻爲寶坻縣地明永
樂初置梁城千戶所方輿紀要寶坻縣東南有梁城志云唐末劉
梁城所也梁城守禦千戶所在寶坻縣東
南百十五里建文二年燕王于故梁城置
本朝雍正九年分置甯河縣屬順天府大清一統志
設千總駐守今改爲縣本朝初
北路廳屬沿革表

漢 秦 周

幽州

昌平

軍都縣上屬

谷郡

昌平縣上屬

谷郡

順義

狐奴縣屬

陽郡莽
曰舉符

密雲

漁陽屬
燕

漁陽

漁陽縣屬
陽西境

郡治

庠奚縣屬

陽郡莽
曰敦德

獮平縣屬

陽郡莽
曰平獮

婁陽縣屬

陽郡莽
曰要術

懷柔

平谷

平谷縣屬

陽郡

滑鹽縣屬

陽郡

後漢

幽州

軍都縣屬

陽郡

狐奴縣屬

陽郡

漁陽縣屬

陽郡

西境屬

平谷縣屬
陽郡省
鹽縣來入

三國
魏

幽州

軍都縣屬

陽郡

狐奴縣屬

陽郡

省漁陽
縣入狐奴
平三北境
狐奴縣

平谷縣
所屬
詳不

晉

幽州

軍都縣屬

陽郡

狐奴縣屬

陽郡

北境屬

陽郡

狐奴縣

北境

平谷縣屬
陽郡

白檀縣屬
陽郡

昌平縣屬燕

後趙

幽州

軍都縣屬燕

狐奴縣屬

陽郡

漁陽縣屬

郡治

陽

西境

縣

平谷縣屬

陽郡

漁

昌平縣屬燕

前燕

幽州

軍都縣屬燕

狐奴縣屬

陽郡

漁陽縣屬

郡治

陽

西境

縣

平谷縣屬

陽郡

漁

昌平縣屬燕

前秦

幽州

軍都縣屬燕

狐奴縣屬

陽郡

漁陽縣屬

郡治

陽

西境

縣

平谷縣屬

陽郡

漁

後燕

魏

昌平縣屬
郡

方城縣屬
陽郡

幽州軍都縣屬省狐奴縣
領燕郡尋省入境燕郡治陽郡
陽郡昌平縣
東燕昌平縣
州領昌平縣
平昌郡治
郡偏
城郡萬年縣析
安州都縣置屬
雲都平昌郡
廣陽郡
郡安廣武縣屬
樂郡屬城郡

沃野縣屬
屬河城郡

燕樂縣屬
郡治

要陽縣屬
雲都

密雲縣屬
雲郡

白檀縣屬
郡治

密雲縣
北境
昌平縣
東境
省平谷縣
入密縣北
境屬漁陽郡

廣興縣屬廣

陽郡

方城縣屬廣

陽郡

安市縣屬安

郡治

土垠縣屬安

樂郡

北齊

東行

昌平縣屬平

歸德縣屬燕

漁陽縣屬平

昌平縣

屬漁陽郡

臺領郡治

郡

陽郡

遼陽萬年縣屬平

燕樂縣屬安

遼州昌郡

樂郡省廣

領平

興方城二

縣來入

昌郡省獨城僑
安州郡並廣武
領安沃野二僑
樂郡縣

密雲縣省

雲郡屬安

樂郡省白

檀要陽二

縣來入

安市縣安

郡治省土

堤縣來入

周

幽州昌平縣

平省歸德縣

漁陽縣屬昌平縣

東境

潞縣北境

總管昌平縣

境燕郡治陽郡

燕郡

通陽萬年縣

燕樂縣屬

郡平昌郡

樂郡

元州

領安

樂郡

密雲縣安

郡治省安

市縣來入

隋

昌平縣

廢薊縣北境

燕樂縣

安昌平縣樂東境

漁陽縣西境
治漁陽郡

昌平縣
屬平
昌郡屬
州省萬年
縣來入

密雲縣
屬安
樂郡

唐

河北道

昌平縣
屬幽
州

懷柔縣
析
縣僑置
順州治
歸治

密雲縣
屬
州東境
燕樂縣
屬
州

漁陽縣西境
治薊州

五代

河北道

昌平縣
屬幽
州

懷柔縣
順
州治

密雲縣
屬
州東境
燕樂縣
屬
州

漁陽縣西境
治薊州

燕樂縣
屬
州

五代

河北道

燕平縣

昌平

懷柔縣

順州

密雲縣

檀州

燕平縣

東境

漁陽縣

西

薊州治

唐

縣改名
屬幽州

治

燕樂縣

屬檀

州

遼

南京道

昌平縣

復故

懷柔縣

順州

密雲縣

檀州

昌平縣

東境

漁陽縣

西

薊州治

名屬析津治

治省燕樂
縣來入

析

境

薊州治

西

境

行唐縣

置

屬

檀州

置

屬

宋

燕山府路

昌平縣

屬燕

懷柔縣

順州

密雲縣

檀州

昌平縣

東境

漁陽縣

西

境

山府

治

治

行唐縣

賜名

威塞縣

屬

檀州

屬

威塞縣

屬

境

薊州治

西

境

金

中都路

昌平縣屬
興府

溫陽縣
縣改名順州治

唐縣來入
屬順州尋省入檀州

平峪縣
屬

元

直隸中書省

昌平縣屬
都路

順州省溫陽縣
入州屬大都路

檀州屬
都路東境

平谷縣
屬

明

京師

昌平州
屬順天府

順義縣
州改置屬昌平州

密雲縣
屬昌平州

懷柔縣
屬昌平州

平谷縣
屬

國朝

京師順天府

昌平州屬

順義縣
屬順天府

密雲縣
屬順天府

懷柔縣
屬順天府

平谷縣
屬

昌平州衝繁難

新書地理志昌平望
金地理志昌平下

漢昌平軍都二縣

地新附注地理志

昌平在平望今昌平州東南軍都在今

屬上谷郡後

漢改屬廣陽郡魏屬燕國晉亦屬燕國

晉疆域表軍都縣郡西北九分今昌平州西七里昌

平縣郡北少西石趙屬燕郡後魏亦屬燕郡太和中分恆州東部

乃今州治東南方輿紀要太和中分恆州後省昌平人軍都天平

置燕州治昌平東部置燕州於此治昌平後省昌平人軍都天平

中置東燕州平昌郡復置昌平爲州郡治并置萬年縣寰宇記後

縣於今縣東北二十里置故城在其南更省軍都入昌平一統志

於今縣郭城置東燕州平昌郡平昌縣平昌縣於此魏書地形志

城在昌平縣西漢縣後魏置東燕州平昌郡平昌縣平昌縣於此魏書地形志

東燕州天平縣西漢縣後魏置東燕州平昌郡平昌縣平昌縣於此魏書地形志

九十里本漢軍都縣後魏置軍都於今縣東北二十里更於故縣

置東燕州及昌平縣後魏置軍都於今縣東北二十里更於故縣

有軍都村亦曰縣址按今州在舊縣東八里以寰宇記道里計之

唐時昌平縣尚在舊縣之西卽軍都城也今州東之軍都城卽縣

義縣志所謂軍都城在縣西北三十武定中又置徧城郡領廣武

餘里乃魏齊時所置非故縣也武定中又置徧城郡領廣武

沃野二縣一統志廣武廢縣在昌平州西後魏武定元年僞置徧

廣武北魏東燕州徧城郡今直隸順天府昌平州西齊因之廢

野北魏縣東燕州徧城郡亦今直隸順天府昌平州西齊因之廢

徧城僑郡周州郡俱廢後又置平昌郡開皇初廢郡并省萬年來

入方輿紀要萬年城在州西南東魏天平中大業初屬涿郡唐屬

幽州後唐同光二年改曰燕平縣清類天文分野之書唐徙治曹

村又徙於白浮圖城方輿紀要五代唐改曰燕平縣徙治曹晉天

福初復名昌平清類天次分野之書石晉遼屬析津府宋屬燕山

府金局大興府元屬大都路明初屬北平府永樂元年屬順天府

景泰元年築永安城於東三年遷縣治焉昌平山水記明景泰元

城徙長嶽景三陵衛於內名曰正德元年升昌平州旋罷八年復

永安城三年并昌平縣徙焉明地理志昌平州元

升爲州領順義懷柔密雲三縣昌平縣直隸大都路

本朝屬順天府雍正六年改順義懷柔密雲三縣直隸順天府

順義縣衝繁難中舊書地理志順州下遼地理志順州歸化軍漢

狐奴縣屬漁陽郡新制注地理志在今順天府順義莽曰舉符後

漢亦曰狐奴景初二年廢後復置與晉皆屬燕國石趙屬漁陽郡

燕秦屬燕國魏屬狐奴北齊置歸德縣屬燕郡周省入薊縣隋因

之唐開元四年置歸順州懷柔州為契丹松漠府彈汗州部落治

懷柔寰宇記歸順州其地乃燕之北境唐開元四年置為契丹松

漢府彈汗州部落懷柔一縣天寶元年改為歸化郡天寶元年

乾元元年復為歸順州自安祿山之亂此地因陷入胡天寶元年

改歸化郡乾元元年復為歸順州唐末曰順州志云順州之名始

自隋然考之隋書粟末靺鞨渠長度地隋內附止云居之柳城而

己寰宇記云大業四年為道遼百部以統之亦未有隋置順州之

文也唐貞觀四年平突厥乃以其部落置順祐化長四州都督府

於幽薊之境其時順州屬治營州南五柳城後又屬治幽州城順

寰宇記順州四至入到興范陽同東北至幽州一百二十里則順

州乃在幽州之南與今之順義初不相蒙矣至於開元中徙燕州

於挑谷山雖今縣地然仍曰燕州繼為朱滔所滅因廢為幽都縣

終唐之世亦未嘗以順州稱也直至梁乾化三年晉周德威拔燕

順州地以順州名見此而五代史職方考後唐一百二十三州順

州始在其列此紀地志者所當考也日下舊聞攷太平寰宇記

楊帝初廢營州為柳城唐仍營州貞觀六年置順州寄治營州南

五柳城遼史誤以唐置為隋置明志因沿其誤耳至順州非即今

順義地按通典順州在范陽郡城內天寶初置尋改為順義縣

兩郡今考寰宇記順州順義郡領縣一賓義四至入到與范陽同

范陽爲故幽州卽今順天府境歸順州歸化郡領縣一懷柔另有四至入到西南至幽州七十五里今順義縣境正府東北六十里地界相符矣尊以縣爲唐之歸順州歸化郡非順州順義郡是矣至寰宇記所云順州四至入到與范陽同乃指范陽郡言通與謂在范陽郡城內可證葬尊乃以涿州之范陽縣當之云東北至幽州一百二十里則歸順州又在幽州東北七十五里兩地相距幾至二百里中隔幽州一城界址不屬與寰宇記所云歸順州卽元順州之北境其說相悖則是誤以范陽郡爲范陽縣又葬尊之失考也 晉天福中入遼仍曰順州置歸甯軍又改歸化軍統懷柔一

縣屬南京道宋宣和五年賜名順興郡團練軍金亦曰順州明昌

六年改懷柔名溫陽又以密雲縣來屬旋省元省溫陽入州明洪

武元年廢州改置順義縣屬北平府後屬順天府正德八年屬順

天府昌平州明地理志順義州東少南元順州洪武元年十月改爲順義縣屬府正德元年七月來屬

本朝亦屬順天府昌平州雍正六年改直隸順天府

密雲縣街繁難新書地理志密雲中遼地理志檀州武威軍燕下與地理志檀州下元地理志檀州下

漁陽郡秦因之漢爲漁陽新書地理志漁陽在今順天府密雲縣西南三十里應劭曰縣在漁水之陽

也庠矣新制注地理志庠矣在今密雲縣西太平賓字記檀州縣

奕王氏念孫曰漢志本題字亦作虎奕御覽引尚不誤段氏玉裁曰水經

作注廣韻集韻皆無價而集韻曰價廣平今密雲縣西南水經注

奚縣名音田黎切然則價者諱字新制注地理志西南水經注

鮑邱水南逕庠奚縣東又逕要陽縣新制注今密雲縣西南水經注

水在縣東北崔道暉要陽縣考一統志東南六十里在要陽縣地

熱河引水經注大要水逕要陽縣故城東為證按前漢之要陽縣

屬漁陽郡後漢省北魏後置要陽縣屬密雲郡魏書復置其縣而

郡要陽縣注前漢屬漁陽郡後漢屬密雲郡魏書復置其縣而

改屬于密雲郡以別于前漢之屬漁陽郡後漢屬密雲郡魏書復置其縣而

沿山多不詳而獨于要陽指為漢縣自無可疑又魏之要陽有桃

花山而遼史以桃花山屬之檀州可知要陽故地即檀州境內

矣按要陽以要水得名水曰清水源出古北口外自大小黃崖口

入境又東入于潮河漢要陽縣以此名昌平山水記亦謂要水

出塞外至密雲縣東入潮河俗謂之清水河按熱河志清公莊河入

潮平縣南境邊城外西南流至塘子峪之西南司馬台至令公莊河入

並河今密雲縣東北境內塘子峪之西南司馬台至令公莊河入

遠于潮河要陽自當在司馬台西至石匣鎮數十里之問清水河

北與邊外無涉又水經注要水出塞外三川並導謂之大要水東

南流逕要關縣故城東又東南流逕白檀縣入于濡今之要水但
西南流入潮河不入灤河乃知水經注要水一條本應入鮑印水
下其誤入濡水者道白檀新解注地理志白檀在今密雲縣南二
元之外也不足據也白檀引水經注濡水逕白檀縣考一統志原
本以熱河爲漢白檀縣引水經注濡水逕白檀縣考一統志原
魏武北征烏桓出盧龍塞經白檀之文爲證謂漢時白檀等縣皆
在遼外又漢志無之說者遂疑其本在邊外棄入鮮卑然光武併
後漢書郡國志無之說者遂疑其本在邊外棄入鮮卑然光武併
邑縣甚多應劭謂中興時人民稀少司馬彪謂世祖以官多役繁
乃命併省非因在邊外而棄入鮮卑也且考漢白檀縣明在後
之密雲縣境何以知之前漢有白檀縣及庠奚縣而無密雲縣後
漢省白檀而存庠奚至北魏時置密雲郡始於漢庠奚縣改置白
檀縣以爲郡治而於白檀故地別置密雲郡北齊以後皆仍北魏
密雲縣之名實卽漢白檀之故界故隋唐之檀州卽今密雲縣皆
取義于白檀遼史地理志則爲檀州武威軍下謂爲燕漁陽郡地
漢爲白檀縣并引魏書曹公歷白檀及續漢書白檀在右北平之
文以爲證曾公亮武經總要于檀州武威軍下亦引漢書將軍李
廣弭節白檀之文以爲證顧祖禹方輿紀要又稱白檀廢縣在密
雲縣南二十里有白檀山漢所以名縣是前漢之白檀故城當在今
之密雲縣南二十里有白檀山漢所以名縣是前漢之白檀故城當在今
水經注之鮑印水篇而誤作濡水者也若後魏之白檀自在今之
密雲縣東北謹按魏書地形志密雲郡治提攜城而于白檀縣下
復注曰郡治故知後魏之白檀故城卽在此提攜城也又考漢書

岸夷縣注曰郡治孟康曰岸音題字或作踰後漢書作倮奚水經
注爲倮奚魏志之提攜城無疑北齊以後又于提攜城置倮奚縣故
舊書地理志曰燕樂縣舊治白壇故城此指魏之白壇據舊唐書
地理志續通典亦曰燕樂縣舊治白壇城亦以別於漢之白壇據舊唐書
地理志燕樂縣在檀州東北八十五里大平寰宇記燕樂在檀州
城東北至若金史興州興化縣下有白檀鎮泰和三年升爲宜興
縣其地在今古北口外舊說據之以爲此鎮漢之白檀爲興州河
至此與古濡水合流也然古來近邊之地其軍戍之白檀爲興州河
相同者頗多如魏之密雲戍見于水經注而不可以謂之密雲縣
唐之柳城軍見于唐書而不可以謂之柳城縣況金史于白檀鎮
下無沿革可考又在長城以外惡得因鎮名之偶同而卽據爲漢
縣哉然則魏武征烏桓何以出盧龍塞越白檀之險上徐無山田疇爲鄉導
經白檀特經其境不必至其城當日魏武上徐無山田疇爲鄉導
踰最熱其縣計曰從盧龍塞越白檀之險上徐無山田疇爲鄉導
盧龍塞者必先越過白檀之險也密雲東北連山至濡口均係白
檀之險徐無山在遼化州西當在白檀險塞之中是三國志經白
檀一語正指徐無山言其書之於盧龍塞後者當日田疇定計改
勢又追書其未出盧龍塞時所經白檀山境內徐無山之險明係
倒著文法若從舊說漢白檀爲遼平縣地是魏武出盧龍塞後不
東趨柳城反折西至古北口外幾於南轅而北轍此固勢所以必
無且曰時之所謂路近而便者義又安在故知其不足據也洪

順治讀書叢錄乃召拜廣爲右北平太守又云將軍其率師東轅
齊節白曰王康曰白檀縣名也屬右北平順治按地理志白檀屬
漁陽郡當是諸縣地以漁陽爲郡治後漢治徒潞水又南逕邱
後所改屬是諸縣地以漁陽爲郡治後漢治徒潞水又南逕邱
故城西王莽之通潞亭也漢光武遣吳漢耿弇等破銅馬五幡於
潞東謂是縣也而東南流逕潞城南世祖拜彭寵爲漁陽太守
治此魏志劉虞從事鮮于輔問柔等欲報公孫瓚與瓚所置漁
太守鄒丹戰潞北則東漢郡始治潞司馬續志仍沿班固爲治
縣陽省要陽白檀按寰宇記木茂庫奚縣地通志云漢置漁陽縣
者誤省要陽白檀爲郡治方輿紀要云漢白檀縣地并載要陽
平故城是今縣得侯之五縣地有以漢縣地大言者疑沿邊較
地爲密迨及世祖以官多役煩併省縣邑甚多要陽白檀均入
陽亦以縣廢漁陽郡兼省漁陽庠奚嶺平於邊外石趙魏復置立
邑太多與廢漁陽郡兼省漁陽庠奚嶺平於邊外石趙魏復置立
漁陽郡治漁陽縣十六國疆域志燕置方城縣方輿紀要方城廢
蓋慕容燕所置魏移郡治雍奴皇始二年置密雲郡白檀縣治
提攜城北魏郡白檀治提攜城即漢庠奚故城也地理志密雲
縣安州密雲郡今直隸順天府密雲縣東北七十里白檀魏
天府密雲縣東北七十里領密雲郡今直隸順天府密雲縣治
要陽今直隸順天府密雲縣東南六十延和元年置益州於燕

樂縣

地理韻編燕樂縣安州廣陽郡今順天府密雲縣東北七十

置交州於安市縣

地理韻編安州縣魏

安州

安樂郡今順天府密雲縣東北七十

方

太平真君二年改益州

與紀要安市遼東屬縣北魏置于此

地理韻編廣興北魏安州廣陽郡按當在順天府密雲縣東北

改交州爲安樂

郡九年省方城入密雲省恒山入廣興省永樂入燕樂省常平入

安市置土垠縣屬安樂郡

地理韻編土垠北魏安州安樂郡今順天府密雲縣東北一百八十

二年置安州

賀宇記取懷安之義也

領密雲廣陽安樂三郡治故方城普泰

元年復置方城縣屬廣陽郡天平中陷元象中寄治幽州北界又

移廣陽郡燕樂縣於白檀縣治北齊廢密雲郡及要陽白檀二縣

入密雲

按一統志云齊廢白檀爲燕樂縣破魏元象中移燕樂與白檀同治至是始省白檀也

廢廣陽郡以

廣興

按隋志遼陽帝緯改大興

方城入燕樂廢土垠入安市而安樂郡如故周

改安州爲元州廢安市入密雲縣隋開皇初廢安樂郡入元州十

六年州徙治無終以密雲燕樂隸幽州十八年置檀州大業初廢

州復置安樂郡領燕樂密雲二縣唐武德元年復置檀州長壽二

年移燕樂於新興城天寶元年改曰密雲郡治密雲屬河北道乾

元元年復置檀州後省燕樂來入

按紀要五代廢為燕樂莊興地廣記寰宇記均有燕樂至遼史

無之疑

遼初有晉天福中入遼加武威軍號置行唐縣

方輿紀要行唐縣在縣東遼志

行唐縣本定州行唐縣太祖掠定州破行唐盡其民北至檀州擇曠土居之凡置十寨仍名行唐縣隸彰德宮

宣和五

年金人歸宋賜郡名曰橫山升鎮遠軍節度行唐賜名威塞七年

復入金廢行唐以密雲屬順州後置檀州省密雲縣元因之

元地理志

金仍為檀州元田之明洪武元年改州為密雲縣屬北平府

按一秋志作順天府是時府曰

北平府有正德中改屬昌平州

本朝雍正六年改屬順天府

懷柔縣衝繁漢漁陽縣西境魏省漁陽入狐奴為狐奴縣北境晉

因之按狐奴元二年省狐奴而晉地理志燕國有狐奴不魏省狐

言新置是仍魏之省也意景元省縣未幾復置與

奴按奴奴之首未知何時致十六國疆或志石皇始中置密雲爲

密雲西境天平中置昌平又爲昌平東境唐遼金元皆爲昌平東

境明洪武元年析昌平境復置懷柔縣並分密雲西境隸之屬北

平府日下舊聞次太平寰宇記順州理賓義縣唐貞觀六年置寄

州曰至八到與范陽同此順州也通典所謂順義郡乾元元年復爲順

內府是矣歸順州理懷柔縣即元順州之北境開元四年置爲松

化郡乃松漠府渾汗州所改其地南至幽州順州八十五里西南

至幽州七十五里爲今順義縣地未弄尊所云今之順義本歸順

州歸化郡非順州順義郡是也至今懷柔乃明初析昌平密雲地

所立姓取古名順非舊地攷遼史順州歸化軍領縣一懷柔有溫

餘河金史領縣二溫陽密雲溫陽溫餘水之陽也即懷柔所改今

溫餘水入順義北界不經順柔界是可證昔之懷柔爲今順義而

今非懷柔矣遼史此條混歸順州於順州固多泮錯弄尊既以歸

順州爲順義復以此條并下條載入懷柔是又混懷柔於順義矣

按唐之懷柔自五柳城徙幽州即今順義今之懷柔係明洪武析

昌平置被以古懷柔之名實非古懷柔之地矣順義懷柔正德八年

柔二縣日下舊聞攷最治今從其說他書皆不免外誤

改屬昌平州明地理志懷柔州東北洪武元年十一月省入檀州

十二月復分懷柔昌平二縣地置按懷柔唐書金明

昌改溫陽元太祖十年省溫陽元史並
無懷柔此云洪武元年省入檀州可疑

本朝因之雍正六年改直隸順天府

平谷縣簡

元地理志

漢平谷

地理韻編

漢平谷

西漢漁陽郡今

平谷

滑

鹽二縣地

新縣注地理志

屬漁陽郡後漢省

滑鹽入平谷

方與紀

鹽

田世謂

鹽

廣縣在縣西北

漢縣屬漁陽郡後漢廢

明帝時謂之鹽

田世謂

鹽

縣地

在

滑

熱河引水經注

大榆水河經滑鹽縣

攷一統志原本以

漢滑鹽縣屬

漁陽郡

後漢廢

明帝時謂之鹽

田世謂

又南運後漢省

水經注大榆水河經

滑鹽縣攷一統志原本

以漢滑鹽縣屬

漁陽郡

後漢廢

明帝時謂之鹽

田世謂

城北魏時置

縣故城東是滑鹽與

優奚相安州舊漁陽郡

之滑鹽縣屬

漁陽郡

後漢廢

明帝時謂之鹽

田世謂

狄則其地之近邊

可知唐書地理志

蔚州東北九十里

有洪水守

北

城

一名解

鹽

境又東北三十里

有鹽城守捉唐之

蔚州東北九十里

有洪水守

北

城

一名解

鹽

漢縣屬漁陽郡今

平谷北近邊地多

屬密雲縣是又兼得

密雲東北

境

也

總之滑鹽縣在

優奚城北又在

大榆河北其地又

近邊大榆河

注

即古鮑邱水爲今

之湖河今潮河自

古北口來入密雲

縣東北

境

之又屈曲西南至

石匣東清水河自

西來會石匣在密

雲縣東北

六十里古北口在

石匣東北又六十

里且近邊潮河繞

其西又屈

之密雲縣城即前漢之白檀縣境而石匣城當其中又在潮河所
西疑卽前漢時庫奚故城水經注之所謂縣南六十里振大榆河
謂提攜爲密雲郡白檀縣治者正在滑鹽縣南六十里振大榆河
要害以形勢度之當不遠也又按方輿紀要引邊防攷古北口
潮河寬處可一里防築垣五臺東壘下昔有鐵門關爲出入常道屬
不限戎馬川之兩防築垣五臺東壘下昔有鐵門關爲出入常道屬
不關西臺上有樓總督川口東南又有小城日潮河直外橫濁百七
下有小城日北關營川口東南又有小城日潮河直外橫濁百七
守禦千戶所又引志日潮河直外橫濁百七
水溪則成巨浸水退爲垣塗可通萬里許二岩三岩間築城壘
宏治中撫臣洪鍾議以古北口東三萬里許二岩三岩間築城壘
內低約餘二丈鑿爲兩渠以殺水勢復於口內砌石堰使水由川
中行仍於堰內築外關一座既而功久不從之議者謂於柏查山
築磨則川在牆內壘之無益設橋則其間可防衝矣許論謂潮河川
道門外有蜂窩嶺增墩濬川設橋則其間可防衝矣許論謂潮河川
係建元上都故道尤爲寇衝宛轉令河不碍水路亦備禦一法也嘉靖
中選民哈丹兒川中錯綜宛轉令河不碍水路亦備禦一法也嘉靖
議者欲於潮河以西山野固北魏滑鹽縣境內廣長壘當不出此
崖創修橫城一道以爲險固北魏滑鹽縣境內廣長壘當不出此
北口外數十里之間至水經注稱滑鹽縣西北去禦夷鎮二百
舊說據之以證滑鹽縣之在邊外然攷水經注云禦夷鎮西北去
鎮北塞中則禦夷鎮在其東南可知今潮河卽古鮑邱水自豐甯鎮
則禦夷鎮在其東南可知今潮河卽古鮑邱水自豐甯鎮

白河卽沽水自獨石口外發源是今豐甯縣之西南境濠平縣之
西境與獨石廳相接處卽當時禦夷鎮地其去邊城本不甚遠况
自獨石口沽水原起至東南之禦夷鎮城不過九十里今按古尺
計之大率三分損一實止六十里又禦夷鎮城不過九十里今按
鹽城不過二百里按今古尺計之大率三分損一實止一百三十
三里統計一百九十三里今自獨石口起至獨石廳東南境之黑
河汛爲黑河之東南岸與豐甯縣西南境相接約計六十餘里當
距後魏禦夷鎮不遠又自黑河汛起逕東南歷豐甯縣西南境
自獨石口至古北口則一百九十里正與古尺二百三十餘里其
爲前漢滑鹽縣無疑至若五代史四夷附錄契丹以所得漢人
自爲一部治漢城在炭山東南深河上有鹽鐵之利乃後魏滑
鹽縣地宋白續通典稱漢城在檀州西北五百五十里城北有龍
門山山北有炭山其地在深河源西有鹽泊之利卽後魏滑鹽縣
此二說者又以滑鹽縣爲古濡源之地然水經注但稱鮑邱水逕
滑鹽縣而不言爲濡水所經今潮河自豐甯縣發源南流入遼其
水道至今不易實與濡源絕遠豈得混之爲一且滑鹽本前漢縣
名後漢已廢若北魏則本無此縣是兩書之所謂後魏滑鹽縣其
試又不待魏因之晉省後復置魏太平眞君七年省入潞按三國
辨而明矣魏因之晉省後復置魏太平眞君七年省入潞按三國
晉地理志均無平谷而乾隆圖志云魏因晉省後復置太平眞君
七年省入潞所據僅魏地形志潞縣下眞君七年并平谷屬焉一
語耳今唐爲漁陽西境地金大定二十七年以漁陽縣大王鎮置

平峪縣

日下舊聞攷按金史地理志作平峪問奇集云峪讀如裕平峪縣名

元至元二年省入漁陽

按術類分野之書作

至元三年與元史異十三年復置平谷縣明洪武十年省入三河

縣十三年復置屬順天府薊州

本朝乾隆八年改直隸順天府

定遠方孝傑校